

2021 年 10 月

食料安全保障月報 (第 4 号)



令和 3 年 10 月 29 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2021 年 10 月食料安全保障月報（第 4 号）

目 次

概要編

I	2021 年 10 月の主な動き	1
II	2021 年 10 月の穀物等の国際価格の動向	3
III	2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント	3
IV	2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	3
V	今月の注目情報 南米の生産・輸出動向	4

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	7
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	8
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	9
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	11
5	FAO 食料価格指数の推移	15
6	食品小売価格の動向	16

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	生産量は前年度に比べ 1 割減
	＜カナダ＞	耕作放棄面積の増加と単収の低下で減産見通し
	＜豪州＞	生産量の増加で輸出量が増加、アジア市場向けが堅調
	＜EU＞	EU27 の生産量は前月に比べ上方修正
	＜中国＞	天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し
	＜ロシア＞	生産量は前年度を下回るも品質は良好
2	とうもろこし	8
	＜米国＞	収穫面積増、単収上方修正で生産量史上第 2 位、輸出減の見通し
	＜ブラジル＞	収穫面積増、単収増で生産量史上最高の見通し
	＜アルゼンチン＞	生産量史上最高も輸出税継続
	＜中国＞	収穫面積増、単収増で生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し
3	コメ	13
	＜米国＞	中米における米国産コメのシェアが低下
	＜インド＞	収穫面積と単収の上方修正により生産量は史上最高
	＜中国＞	インドからの輸入量が前月予測から拡大
	＜タイ＞	タイ商務省の見通しは 2020/21 年度に 6 百万トンを輸出
	＜ベトナム＞	船積み契約や政府買入等によりコメ価格が上昇

Ⅱ	油糧種子	
	大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
	＜米国＞ 収穫面積増、単収上方修正で生産量史上最高、輸出減の見通し	
	＜ブラジル＞ 収穫面積増で生産量史上最高の見通し	
	＜アルゼンチン＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続	
	＜中国＞ 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン	
	＜カナダ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産見通し	

特別編

我が国の農産物輸入における海運事情（内航編）

【利用上の注意】

表紙写真：（株）昭和産業 鹿島工場 穀物輸送船（パナマックス級）

出典：昭和産業ホームページ

(https://www.showa-sangyo.co.jp/saiyo/about/factory_tour.html)

(概要編)

I 2021 年 10 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2021/22 年度の作況については、北半球はほぼ確定しつつあるが、これから収穫・作付けが行われる南半球は今後も変動する可能性。

品目別にみると、小麦については、10 月の米国農務省 (USDA) の需給報告では、生産量は史上最高となるものの、主要輸出国である米国やカナダの生産量が下方修正されたこと等から、国際相場は高い水準で推移しており今後も注視が必要。

一方、大豆・とうもろこしについては、生産量が消費量を上回ると予想され、相場も史上最高水準にまで迫った 5 月頃と比較すれば一段落した感があるものの、期末在庫は依然としてタイトな状況であり、南半球の状況を中心に引き続き注視していく必要。

FAO (国連食糧農業機関) が公表している食料価格指数については、本年 5 月まで 12 カ月連続で上昇して以降、2 カ月連続で下落していたが、8 月には上昇に転じ、最新値 (9 月) においても、穀物及び植物油の上昇を受け連続して上昇。

また、海上運賃も引き続き高い水準を維持。

早期注意段階の継続について

現状において、我が国の食料の安定供給に懸念は生じていないものの、上記の状況を踏まえ、2021 年 7 月から適用を開始した、緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、10 月も引き続き適用。

【参考】早期注意段階について (農林水産省 HP)

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



1 中国経済と穀物輸入、需要動向

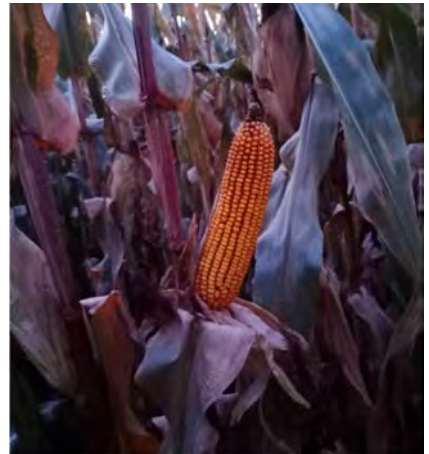
写真:収穫を待つ黒龍江省のとうもろこし
(10月6日撮影)

米国農務省(USDA)の10月需給見通しによれば、7月の河南省の洪水などの影響が軽微であったこともあり、2021/22年度の収穫中のとうもろこしが2億7,300万トン、収穫が終了した小麦が1億3,690万トンとそれぞれ史上最高となる等、中国の穀物生産は豊作の見通しとなっている。

一方、アフリカ豚熱(ASF)からの豚肉生産の回復等から、穀物需要は旺盛となっており、大半を輸入に依存してきた大豆は2021/22年度の輸入量が1億トンを超える見通しである。また、とうもろこしの輸入量が2,600万トン、小麦の輸入量が1,000万トン超と、ここ2年間の輸入量の見通しは大幅に増加し、特に米国産の輸入が増加している。

なお、最近、中国内の大手不動産関連企業が経営破綻した場合の中国経済への影響や、カナダで拘束されていた大手通信機器企業の幹部職員の釈放によるカナダ産菜種をはじめとする穀物輸入への影響が懸念されている。最近では東北地区等で電力不足による停電が相次いでおり、USDAは大豆の搾油工場の操業に影響するとみている。

大豆に加え、近年では、小麦やとうもろこしについても中国の輸入量が我が国の輸入量を大きく上回っており、中国の穀物需要・輸入動向が、国際穀物需給や価格を通じて、我が国の食料供給に与える影響も高まっている。



2 収穫期を迎えた米国の状況

2020/21年度のとうもろこし、大豆はおおむね順調に収穫期を迎え、10月17日現在、とうもろこしの収穫進捗率は52%、大豆の収穫進捗率は60%と、過去5年平均を上回るペースとなっている。USDAの生産見通しでは、とうもろこしは3億8,150万トン(史上第2位)、大豆は1億2,110万トン(史上最高)といずれも前年度を6%上回る見込み。

一方、小麦は収穫が終了し、夏季の干ばつの影響で春小麦の収穫が出来なかった圃場が増え、収穫面積が減少したことから、生産量は、冬春作合計で4,480万トンと前年度を10%下回る見込みである。なお、現在作付けが終盤を迎えた2022/23年度の冬小麦は、一部で乾燥の影響もあるが、発芽期を迎えている。

3 ロシアの収穫状況と輸出動向

USDAの10月見通しによれば、小麦は、越冬期の冬枯れの影響等で減産となり、前年度比15%減の7,250万トンが見込まれている。一方、とうもろこしは前年度比8%増の1,500万トンが見込まれている。

なお、9月30日には、農業省と穀物輸出業界関係者との会合で、ルト農業次官が、現行の可変輸出関税に加え、2022年2月15日から6月まで輸出枠の導入を検討したことについて明らかにした。一方、10月12日には、パトルシェフ農相が、2021/22年度産穀物の収穫が進展し、国内需要と輸出を満たすことができると発言した。

Ⅱ 2021 年 10 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、9月末、260ドル/トン台半ばで推移。10月に入り、USDAの在庫報告での予想を下回る米国の在庫量、好調な輸出需要から270ドル/トン台後半に値を上げたものの、割高な米国産小麦価格、米国プレーンズの降雨による冬小麦の生育状況改善等から、260ドル/トン台半ばに値を下げた。その後、USDAの10月需給報告で世界の期末在庫量が5年ぶりの低水準になったこと、中国の降雨過多による冬小麦の播種遅延等から値を上げ、10月下旬現在、270ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、9月末、210ドル/トン台前半で推移。10月に入り、米国の収穫作業の順調な進展、USDAの10月需給報告で米国の生産量・期末在庫量の上方修正が市場予想を上回ったこと等から10月中旬に200ドル/トン台前半まで値を下げた。その後、堅調な輸出実績や原油高を背景にエタノール生産量の増加等から値を戻し、10月下旬現在、210ドル/トン前半で推移。

コメは、9月末、410ドル/トン台前半で推移。10月に入りバーツ高や中国及びアフリカからの新規需要により、10月上旬から中旬にかけて値を上げた。その後、雨季米の収穫終了前の様子見の状況で価格に大きな変動はなく、10月中旬現在、410ドル/トン台半ばで推移。

大豆は、9月末、460ドル/トン前後で推移。10月に入り、米国の収穫作業の順調な進展、USDAの10月需給報告で米国の生産量・期末在庫量の上方修正が市場予想を上回ったこと等から10月中旬に440ドル/トン前後まで値を下げた。その後、ブラジルの順調な作付進捗はあるものの、堅調な輸出実績や植物油価格の上昇等から値を戻し、10月下旬現在、450ドル/トン台後半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から 460 万トン下方修正され 27.8 億トン。消費量は、前月から 600 万トン下方修正され 27.9 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り 28.3%となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前月予測から、小麦で下方修正、とうもろこし、コメで上方修正され、穀物全体で下方修正され 27.8 億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで下方修正、コメで上方修正され、穀物全体で下方修正され 27.9 億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、5.0 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.9 億トンと前月予測から下方修正、期末在庫率は前月から下方修正された。

(注：数値は 10 月の USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.3 億トン。消費量は前年度を上回り 6.2 億トンとなり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を上回り、18.7%となる見込み。

(注：数値は 10 月の USDA 「Oilseeds : World Markets and Trade」による)

V 今月の注目情報:南米の生産・輸出動向

10月の降雨を受け、ブラジルで大豆、夏とうもろこし、アルゼンチンでとうもろこしの作付けが進展した。ブラジルは前年度、大豆は豊作であったが、干ばつや霜害で冬とうもろこしが減産となった。一方、前年度のアルゼンチンは大豆、とうもろこしも乾燥被害はあったものの、目立った減産はなかった。しかし、従来からの輸出税に加え、降雨不足によるパラナ川の水位低下から輸出に支障が発生した。最近の両国の状況をまとめた。

1 ブラジルの生産・輸出動向

(1) 生産動向

ブラジルの2021/22年度の大豆や夏とうもろこしの作付けが開始された。10月の降雨を受け、10月15日時点で、主産地のマット・グロッソ州では、大豆の作付けは45%進展しており、過去5年平均より20ポイント前後ペースが早くなっている。南部のリオ・グランデ・ド・スール州では夏とうもろこしの作付けが10月14日現在で65%進展している。

ブラジル食料供給公社(CONAB)が10月7日に公表した穀物レポートによれば、2021/22年度の穀物・油糧種子の生産見通しは、価格高騰により農家の作付け意欲が増加していることから作付面積が増加し、生産量も2億8,860万トンと前年度より14%増加する見通し。

大豆ととうもろこしで穀物・油糧種子の生産量の9割を占めている。作付けが開始された大豆については、作付面積の増加により、前年度の史上最高を更新する1億4,080万トンが見込まれており、世界一の大豆生産国となっている。また、とうもろこしのうち生産量の2～3割を占める、現在作付けが行われている夏とうもろこしについては作付面積の増加により、生産量は前年度比15%増の2,830万トンが見込まれている。大豆の収穫後に作付けされる冬とうもろこしは、干ばつと霜害の影響を受けた前年度から41%増の8,800万トンと見込まれている。夏冬合計で1億1,630万トンと前年度から大幅に増加(34%増)し、現時点では、史上最高の2019/20年度生産量を更新する見通し。

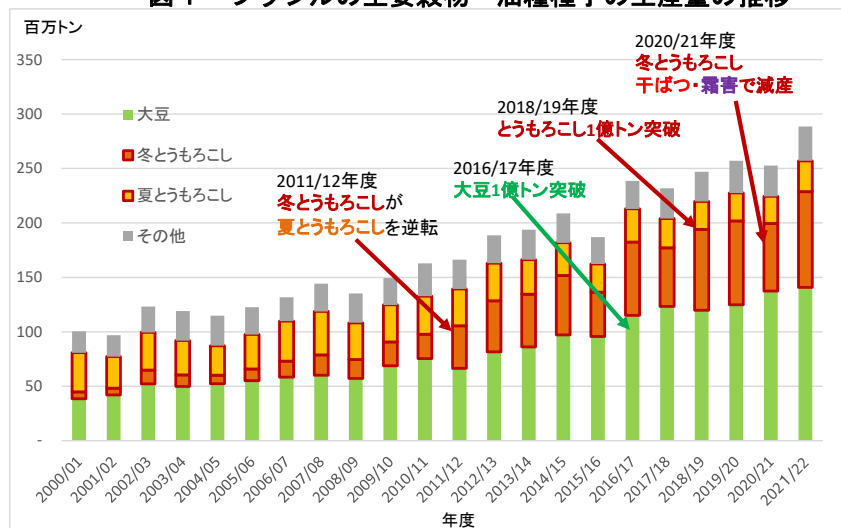
(2) 輸出動向

USDAの10月見通しによれば、2021/22年度の輸出量は、大豆については、豊作を背景に前年度(8,170万トン)を大きく上回る9,300万トン、とうもろこしも、干ばつで減産となった前年度(2,000万トン)の倍以上の4,300万トンが見込まれている。

2021年1～9月期の大豆の輸出量は7,750万トンで、前年同期より2%減少しているが、そのうち5,350万トンが中国向けで、輸入量全体の7割近くを占めている。

2021年1～9月期のとうもろこしの輸出量は1,280万トンで、前年同期より35%減少しており、主要輸出先はイラン、スペイン、エジプトなどとなっている。

図1 ブラジルの主要穀物・油糧種子の生産量の推移



資料: CONAB「穀物レポート」(2021. 10)を農林水産省で加工

2 アルゼンチンの生産・輸出動向

(1) 生産動向

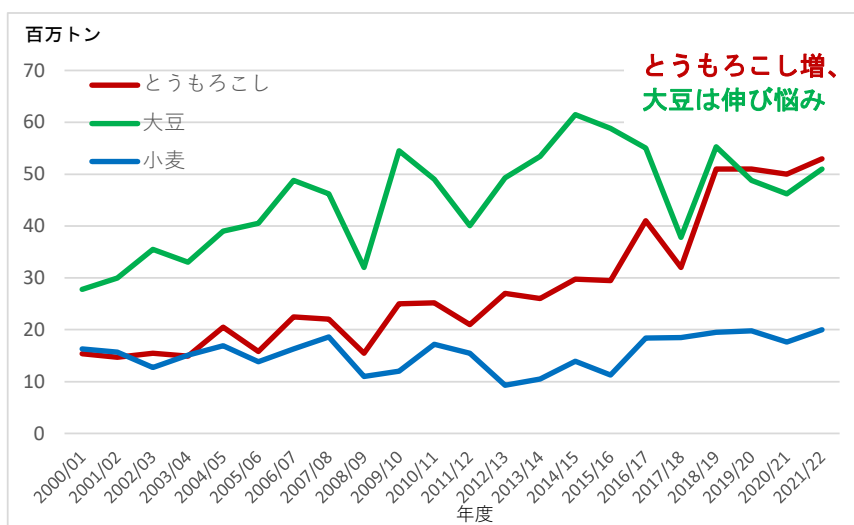
アルゼンチンでは、10月に入り、2021/22 年度産の小麦の収穫が開始された。また、乾燥が続いていた産地でも、9月下旬から10月中旬にかけ、降雨があり、とうもろこしの作付けが進展した。11月には、大豆の作付けが本格的に開始される見通しである。ブエノスアイレス穀物取引所の10月21日週報

によれば、小麦の作付予定面積は 660 万

ヘクタール（前年度 650 万ヘクタール）で、とうもろこしは 710 万ヘクタール（同 660 万ヘクタール）であり、作付進捗率は 26%となっている。USDA によれば、とうもろこしの作付面積が大幅に増加した要因は、輸出税率の高い大豆と比べて収益性が良いため農家の作付け意欲が高いことが挙げられている。

また、生産量については、USDA の 10 月見通しによれば、小麦、とうもろこし、大豆は、それぞれ 2,000 万トン（対前年度比 13%増）、5,300 万トン（同 6%増）、5,100 万トン（同 10%増）と、ともに増産が見込まれている。ここ数年の傾向として、輸出税率の高い大豆より、とうもろこしの生産量が伸びているとみられる。

図2 アルゼンチンのとうもろこし、大豆、小麦の生産量の推移



資料：USDA「PS&D」（2021.10）を農林水産省で加工

(2) 輸出動向

USDA の 10 月見通しによれば、2021/22 年度の小麦の輸出量は 1,350 万トン、とうもろこしは 3,800 万トン、大豆は 640 万トンとすべて前年度より増加の見込みである。

しかしながら、アルゼンチンは農産物の輸出について輸出税（課徴金）を課しており、最大 33%が附加される大豆を始め、大豆かす、大豆油は 31%、とうもろこし、小麦は 12%が課税されている。

さらに、上流のブラジル南部での降雨不足により、パラナ川の水位が低下し、下流の輸出港のロサリオ港からの積込量が制限されていることから、一部の穀物を大西洋に面したバイアブランカ港までトラックで運送し、二港積みする等、輸出コストが増大した。

写真 アルゼンチン サンタフェ州の
とうもろこし作付け（9月19日撮影）



3 国際貿易への影響

近年、中国の大豆をはじめとする穀物需要増に対応する形で、南米の穀物生産・輸出は伸びてきた。

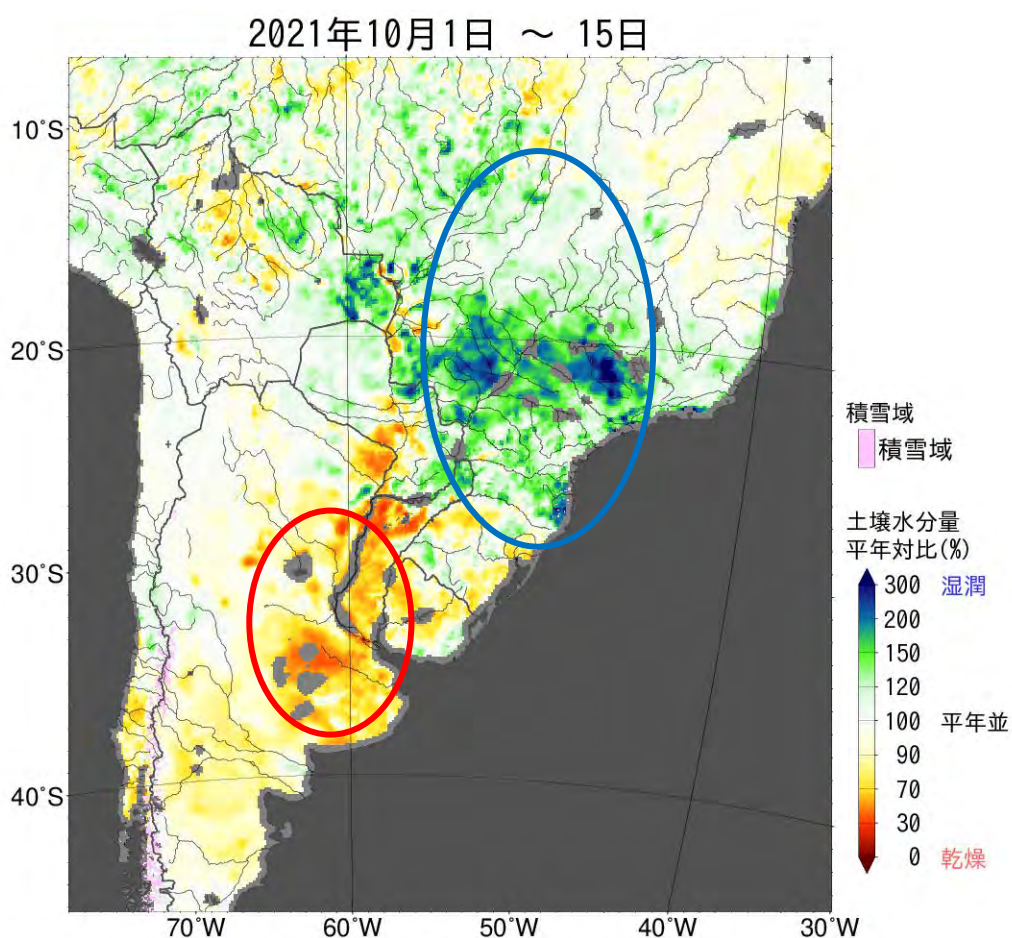
一方で、前年後半からの乾燥懸念、特に今年のブラジル南部からアルゼンチン北部にかけての降雨不足とブラジルでの霜害により、ブラジルでは、2020/21 年度の冬とうもろこしに加え、サトウキビやコーヒーの生産に影響が及び、アルゼンチンでのパラナ川の水位低下による穀物の積み出し制限などにより、農産物価格本体と輸送コストの両面で南米産穀物のコストを引き上げる要因となった。

10 月現在、とうもろこしや大豆のシカゴ相場は、収穫期を迎えた米国の増産（とうもろこし：史上第 2 位、大豆：史上最高）見通しもあり、価格高騰した 5 月と比べて落ち着いた動きを見せているが、依然として前年と比べると高水準である。また、パラナ川の水位低下も 9 月の降雨により緩和された。しかし、今後、生育期を迎える南米の天候次第では穀物相場が再び上昇する可能性をはらんでいることから、引き続き注視が必要である。

図 3 10 月前半の南米の土壌水分量平年比

ブラジルの南部、中西部の土壌水分量は平年を上回っている。青丸

アルゼンチンの中央部の土壌水分量は平年を下回っている。赤丸



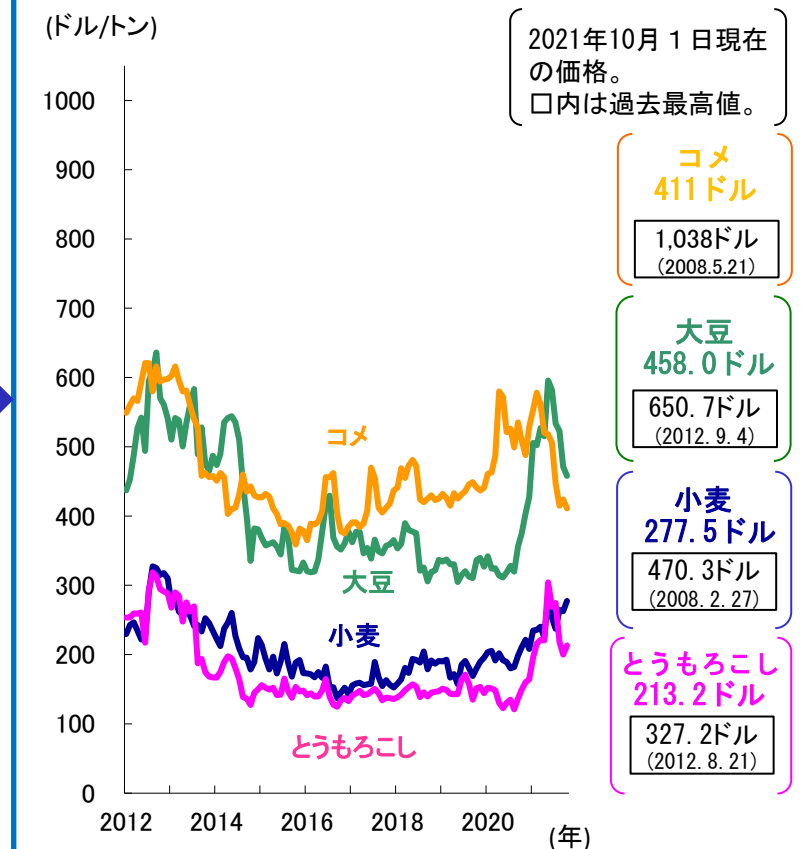
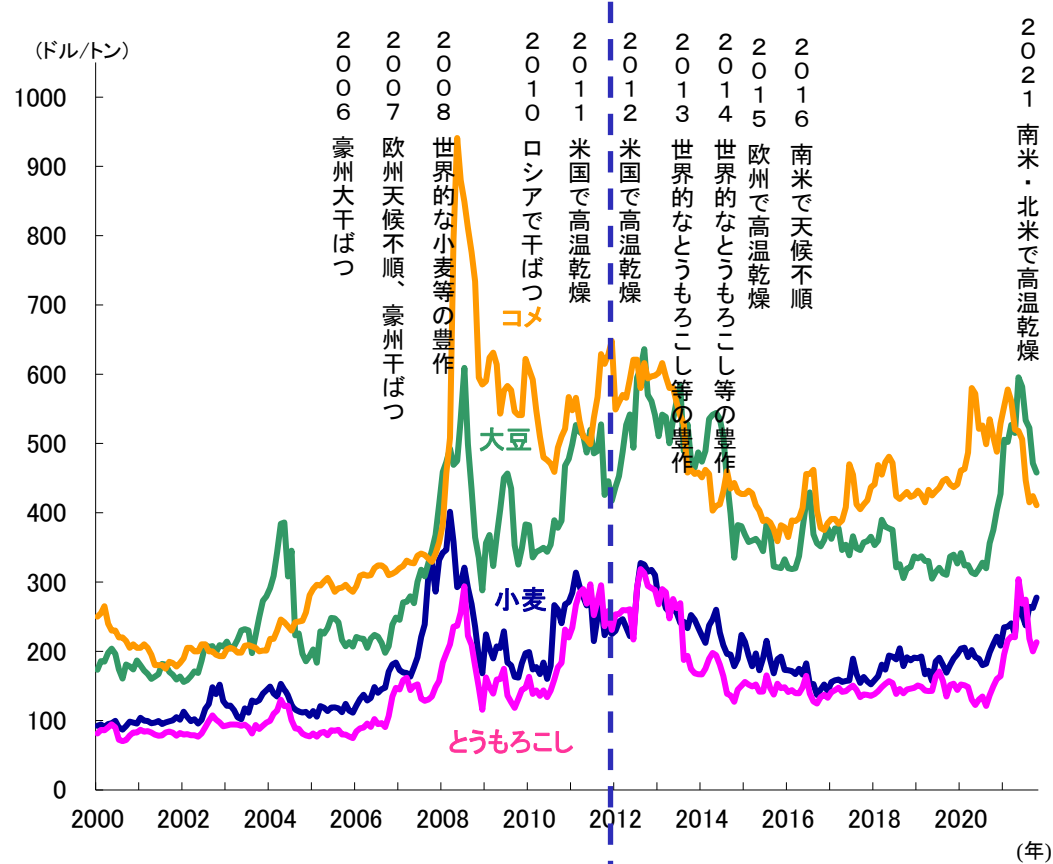
注：JAXA「AMSR2/AMSR-E土壌水分量プロダクト」、「JASMES積雪分布プロダクト」を加工して作成

資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。コメは、2013年以降低下も2020年ベトナムの輸出枠設定や2021年初頭のコンテナ不足等で一時的に上昇。2021年2月半ばから海外需要低迷で低下。

○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



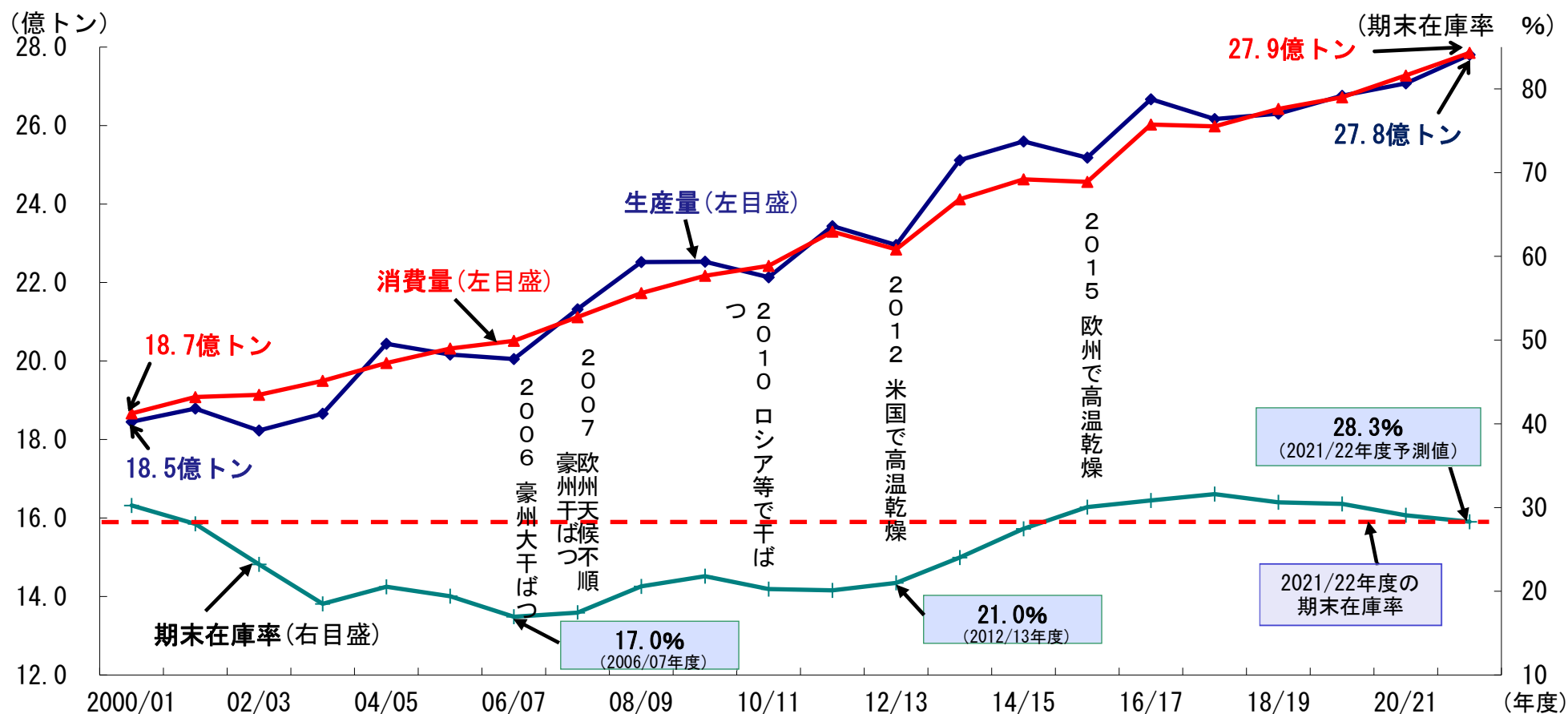
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。なお、コメの最新値は2021年9月29日の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.3%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

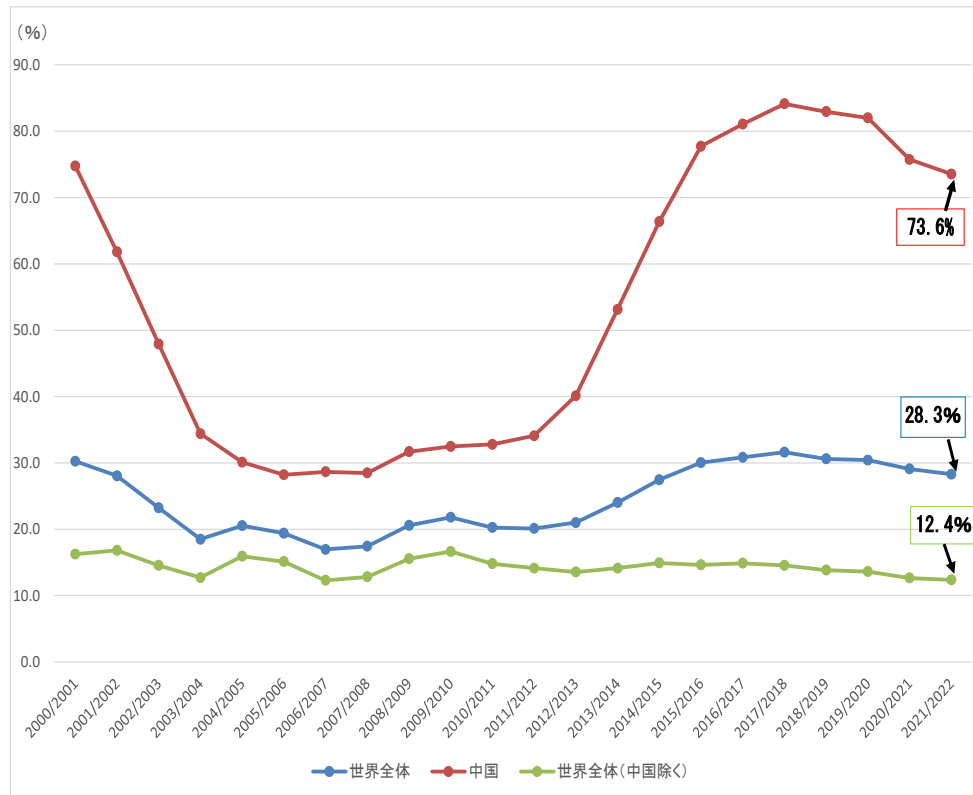
□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



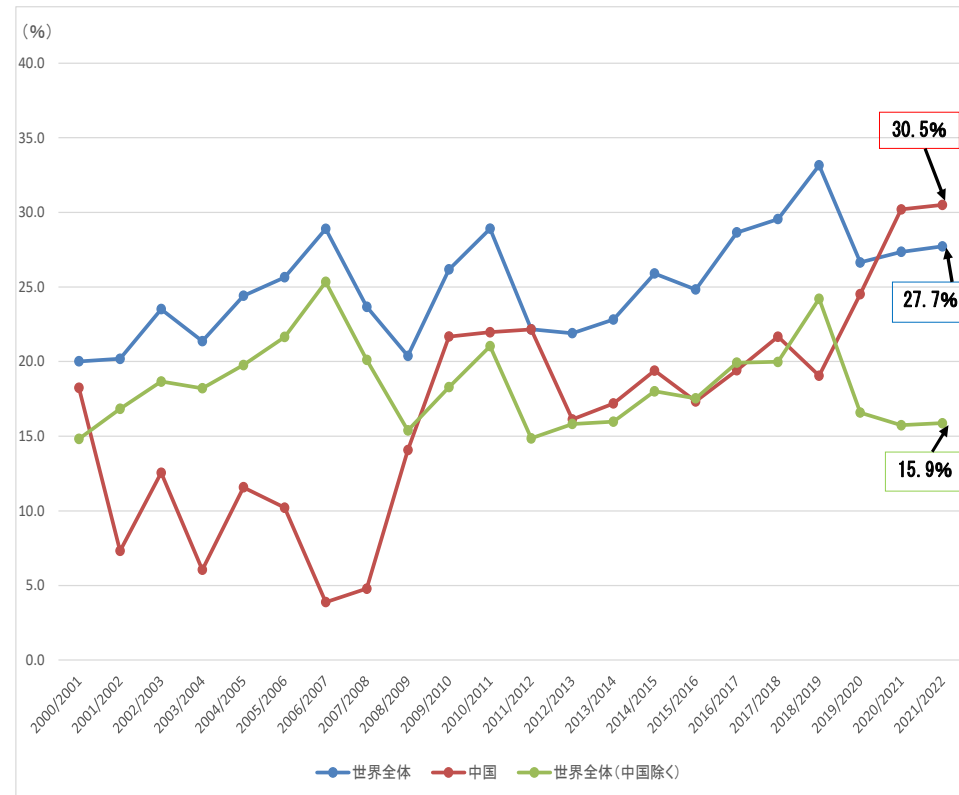
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(October 2021)、「PS&D」
 (注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(October 12, 2021)

注: 1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

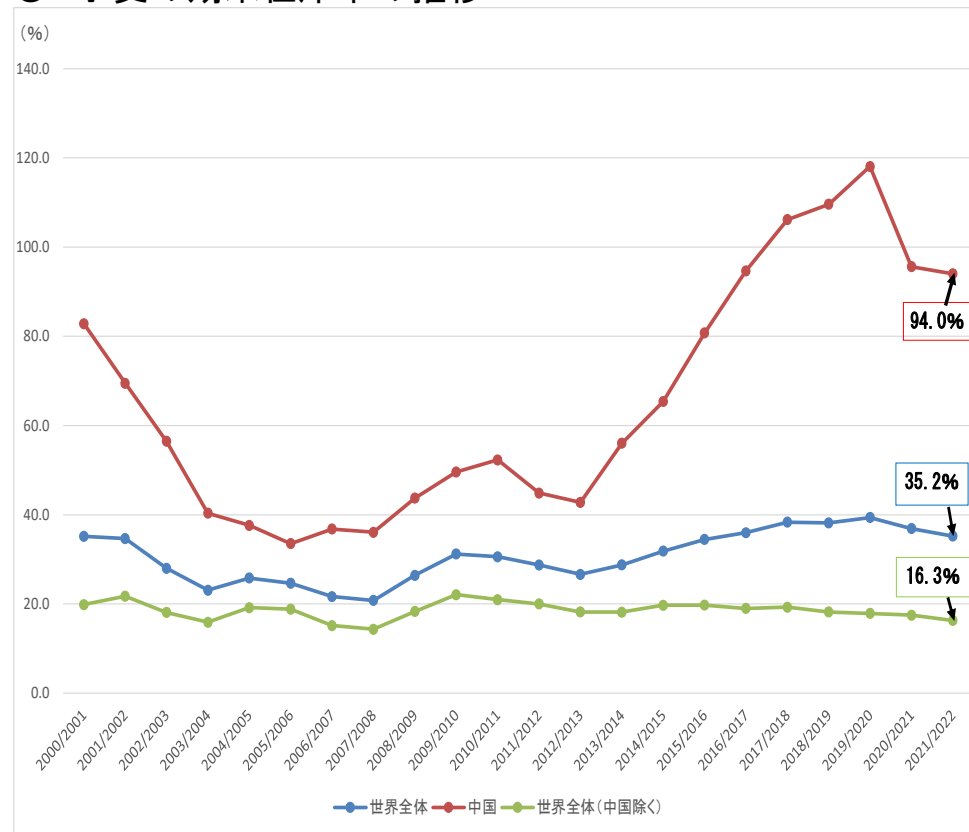
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

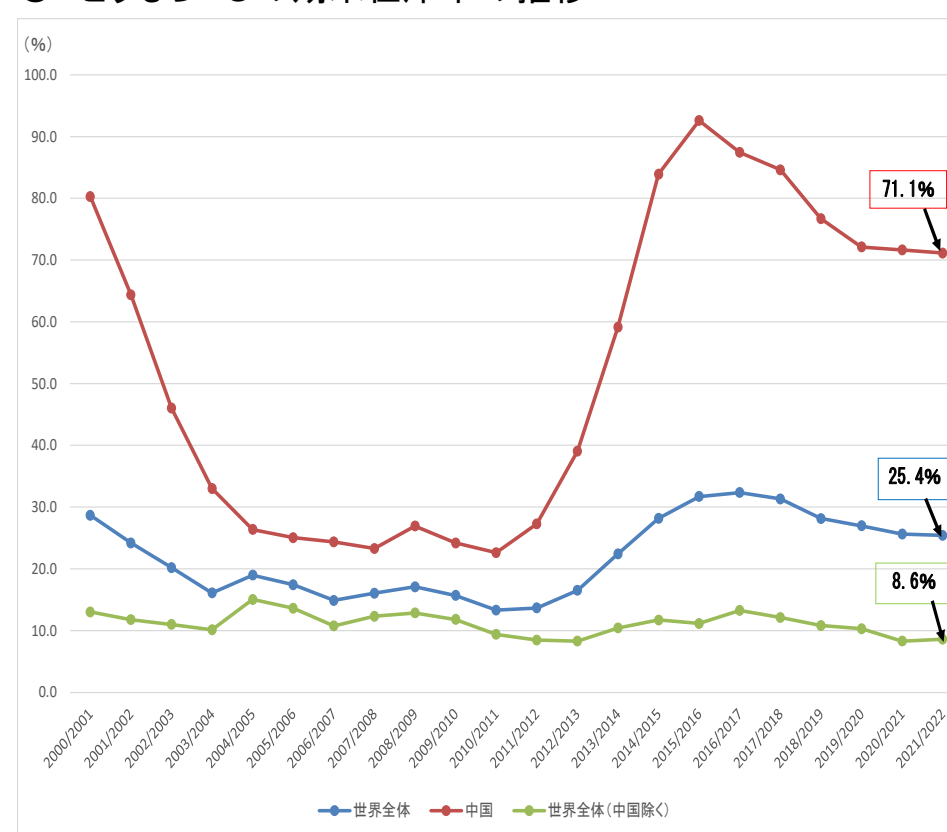
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(October 12, 2021)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

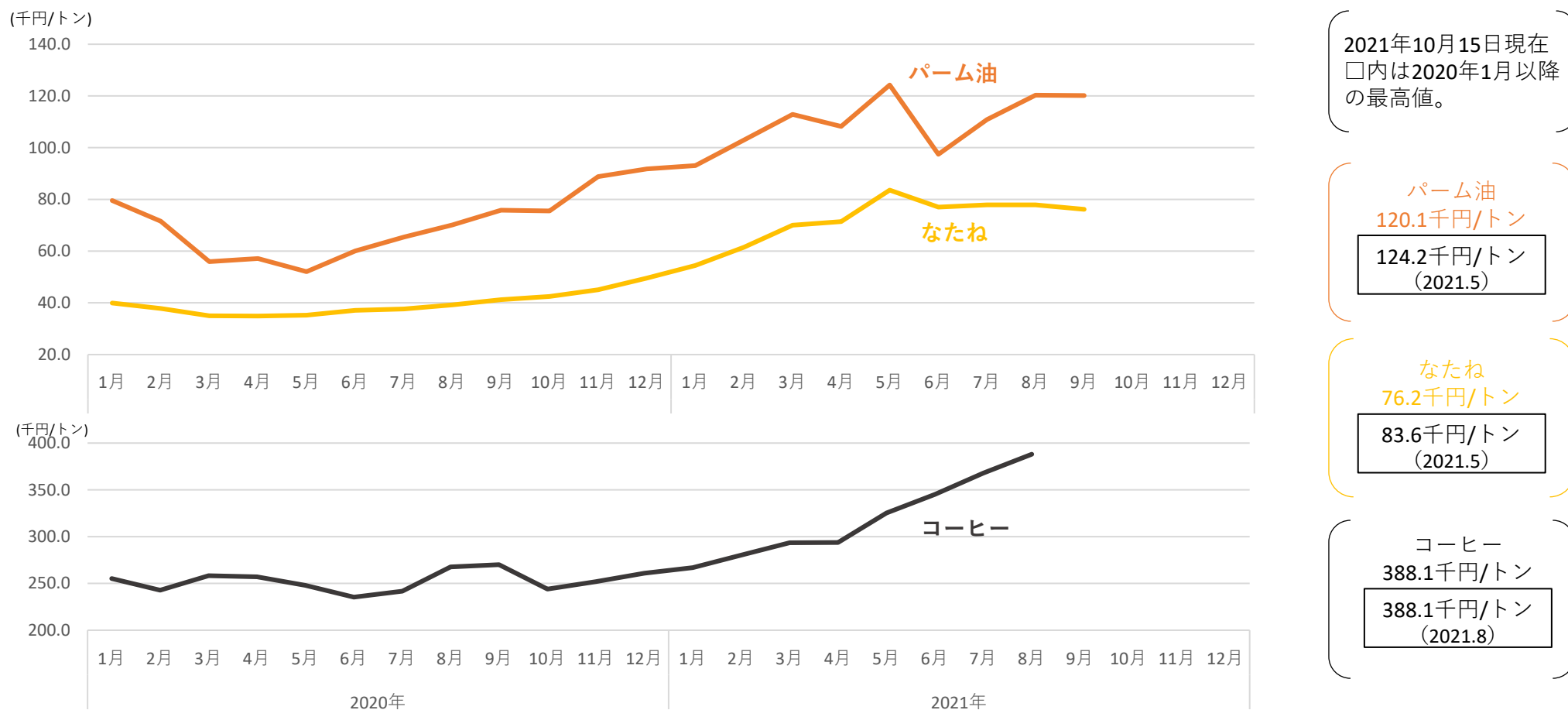
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料４－１ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- なたね、パーム油について、需要の面では世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などが価格に影響を及ぼしている。
- 供給面では、なたねについて、主産地であるカナダにおいて、高温、乾燥により、減産見通しとなっている。パーム油については、新型コロナウイルスの感染拡大による労働力不足により、主産地であるマレーシア等において、収穫作業が進まず、減産傾向となっている。
- コーヒーについて、世界最大の生産国であるブラジルの天候不順や世界的な物流の混乱等供給不足への懸念が強まったこと、需要面ではワクチン接種による経済活動の回復からコーヒー消費量が増加したことが価格に影響を及ぼしている。

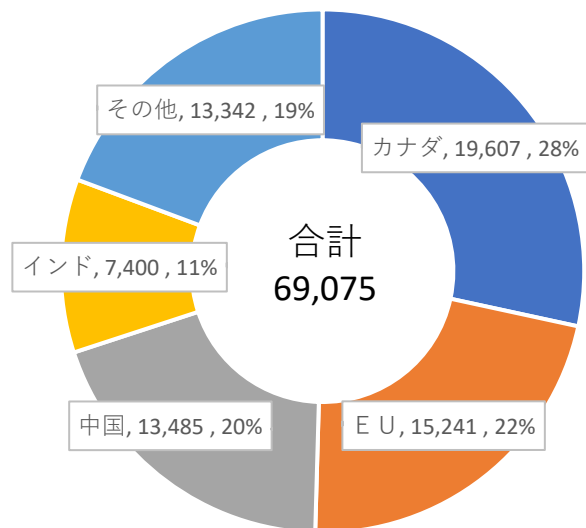


※ なたねの国際価格についてはカナダウィニペグ菜種市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料４－２ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

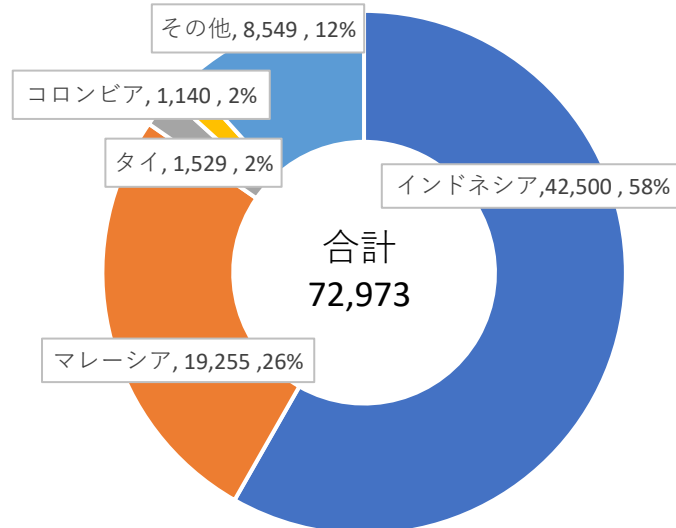
○主要生産国の生産状況

なたね生産量（2019/20）
（単位：千トン）



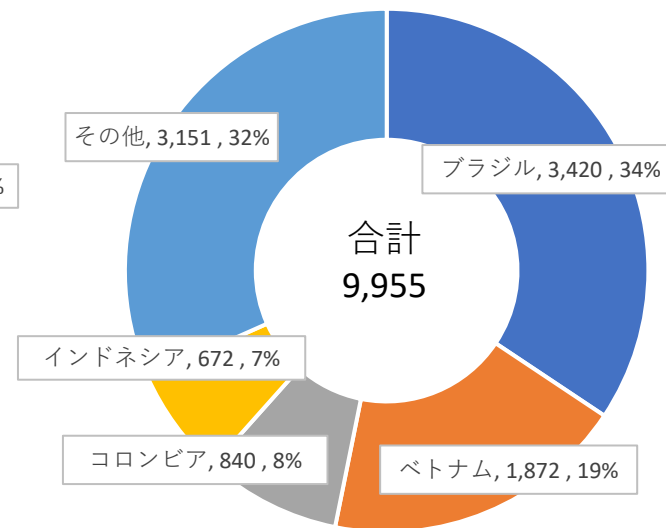
※米国農務省穀物等需給報告

パーム油生産量（2019/20）
（単位：千トン）



※米国農務省穀物等需給報告

コーヒー生産量（2019）
（単位：千トン）



※国際コーヒー機関（ICO）統計資料

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2020年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	2,194	97.4%
オーストラリア	59	2.6%
その他	0	0.0%
合計	2,252	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	447	58.8%
インドネシア	313	41.2%
その他	0	0.0%
合計	761	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	117	29.4%
ベトナム	101	25.2%
コロンビア	61	15.2%
その他	120	30.2%
合計	399	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11-22）

資料４－３ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	39.9	37.8	35.0	34.9	35.2	37.1	37.6	39.2	41.2	42.5	45.0	49.5	54.4	61.5	70.0	71.4	83.6	77.0	77.8	77.9	76.2			
前月比	103.9	94.7	92.6	99.7	100.9	105.4	101.4	104.2	105.1	103.0	106.1	110.0	109.9	113.0	113.9	101.9	117.1	92.2	101.1	100.0	97.8			
前年同月比	101.0	94.9	91.6	92.1	98.4	101.8	102.0	109.7	112.6	112.3	119.6	128.9	136.4	162.7	200.1	204.6	237.4	207.6	206.9	198.5	184.9			

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	79.5	71.6	55.9	57.1	52.1	60.0	65.4	70.1	75.8	75.5	88.8	91.8	93.1	102.9	112.9	108.2	124.2	97.4	110.8	120.3	120.1			
前月比	105.5	90.0	78.2	102.1	91.1	115.3	109.0	107.2	108.1	99.6	117.6	103.4	101.4	110.6	109.7	95.9	114.8	78.4	113.8	108.5	99.9			
前年同月比	134.5	115.7	96.0	100.0	98.9	115.0	129.8	129.3	131.9	135.9	134.6	121.7	117.0	143.8	201.8	189.4	238.6	162.3	169.4	171.5	158.4			

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料４－４ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コーヒー	255.2	242.8	258.3	257.1	247.9	235.5	241.8	267.7	270.0	244.0	251.9	260.9	266.8	280.2	293.5	293.7	325.2	345.1	367.9	388.1				
前月比	90.9	95.2	106.4	99.5	96.4	95.0	102.7	110.7	100.9	90.4	103.3	103.6	102.3	105.0	104.7	100.1	110.7	106.1	106.6	105.5				
前年同月比	104.8	98.3	108.5	111.0	111.4	99.1	98.0	119.0	116.0	105.3	97.4	92.9	104.6	115.4	113.6	114.2	131.2	146.6	152.2	145.0				

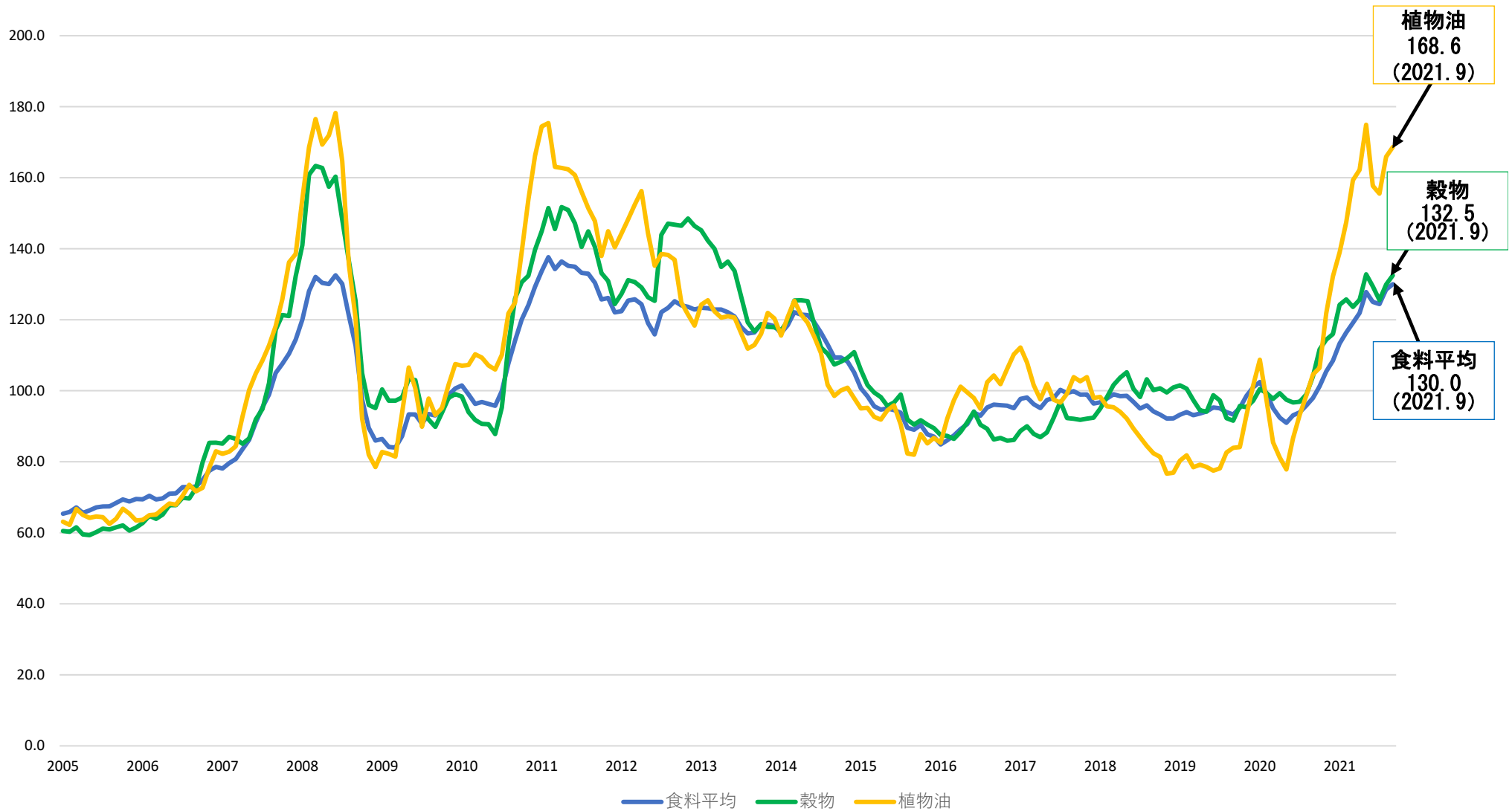
大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2021.10)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

資料6 食品小売価格の動向

○ 令和3年9月の国内の加工食品の消費者物価指数は99.3～113.9（前年同月比で－0.6%～13.8%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省） （令和3年4月～令和3年9月）

【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和3年4月～令和3年10月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.9	99.6	100.2	101.1	100.0	99.2	98.3	99.0	99.3	99.4	99.3	-0.4%
即席めん	96.2	95.7	95.3	98.5	100.0	101.1	99.7	99.0	100.4	100.2	99.6	0.9%
豆腐	98.1	98.6	98.8	99.1	100.0	100.9	101.0	100.8	101.0	100.8	101.6	1.5%
食用油 (キャノーラ油)	106.3	102.7	101.5	100.9	100.0	98.7	99.4	102.3	103.9	107.9	113.9	13.8%
みそ	97.1	96.9	97.4	99.1	100.0	99.9	100.0	98.6	99.5	98.9	100.0	-0.1%
マヨネーズ	103.8	102.3	100.8	100.7	100.0	99.7	100.6	100.0	108.6	110.2	111.2	10.8%
チーズ	97.7	97.3	100.9	101.3	100.0	100.3	97.9	96.5	98.7	100.6	100.6	-0.6%
バター	99.0	99.3	99.5	99.9	100.0	99.8	99.9	99.9	99.9	99.8	99.9	0.0%
生鮮食品を 除く食料	96.1	97.0	97.9	99.0	100.0	99.8	100.0	100.0	100.1	100.1	100.4	0.6%

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3								
品目	平均	平均	平均	平均	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.0	97.6	97.9	101.3	100.0	98.6	98.0	98.4	97.8	97.5	98.8	98.6	-0.2%	-1.1%
即席めん	92.8	92.6	92.4	97.9	100.0	99.6	99.6	99.6	99.0	99.0	99.0	99.0	0.0%	0.0%
豆腐	102.2	100.8	100.1	100.9	100.0	98.5	99.4	100.3	100.3	101.1	105.0	100.7	-4.1%	1.7%
食用油 (キャノーラ油)	99.6	97.9	97.9	103.5	100.0	98.8	98.2	100.1	100.7	106.1	109.0	112.8	3.5%	13.7%
みそ	90.3	91.9	96.6	100.4	100.0	98.4	99.4	99.8	98.1	99.0	102.7	98.4	-4.2%	-0.8%
マヨネーズ	99.9	99.1	97.9	103.1	100.0	97.7	97.7	99.0	104.5	105.9	106.6	106.6	0.0%	7.7%
チーズ	95.5	95.2	98.6	100.9	100.0	99.1	98.6	93.1	99.5	99.1	103.0	98.6	-4.3%	-1.9%
バター	98.2	98.8	99.0	99.5	100.0	99.7	99.5	99.7	99.5	99.5	99.5	99.9	0.4%	0.0%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・EU 等で上方修正も、カナダ、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

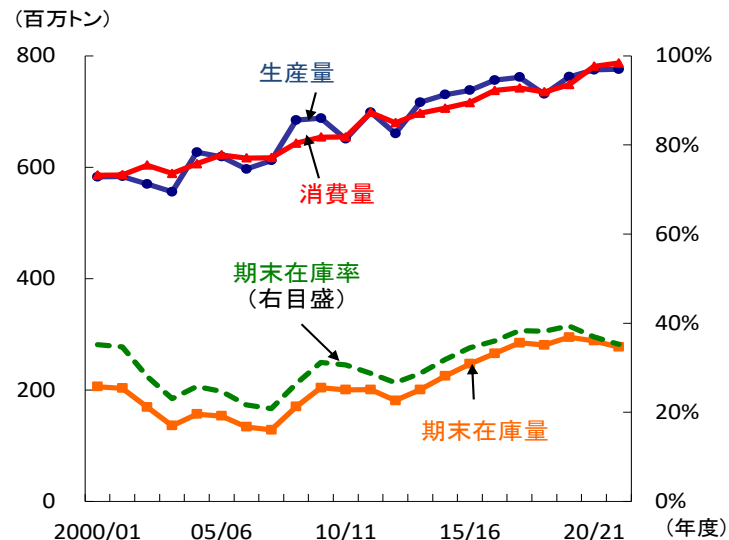
消費量 前年度比 前月比

- ・ロシア等で上方修正も、米国、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・豪州等で上方修正も、カナダ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2021. 10. 12）をもとに農林水産省で作成

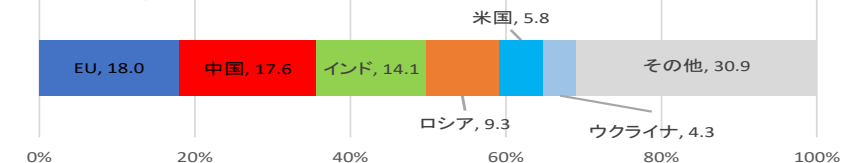
◎世界の小麦需給

（単位：百万トン）

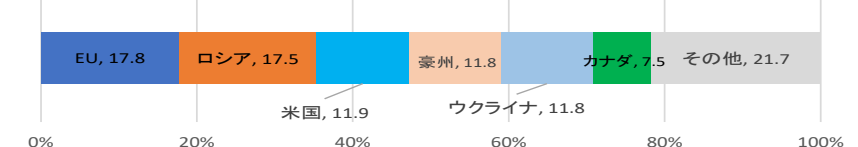
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	762.3	774.7	775.9	▲ 4.4	0.1
消 費 量	748.3	781.2	787.1	▲ 2.6	0.8
うち飼料用	139.2	156.9	158.7	▲ 0.5	1.2
輸 出 量	194.3	201.3	199.6	▲ 0.1	▲ 0.8
輸 入 量	187.4	194.1	198.1	1.0	2.0
期末在庫量	294.8	288.4	277.2	▲ 6.0	▲ 3.9
期末在庫率	39.4%	36.9%	35.2%	▲ 0.6	▲ 1.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 October 2021)

○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量（775.9百万トン）（単位：%）



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量（199.6百万トン）



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量（198.1百万トン）



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 生産量は前年度に比べ1割減

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積、単収ともに減少したことから、前月予測から1.4百万トン下方修正され、44.8百万トンの見込み。

同「Crop Production」(2021.10.12)によれば、作期別の生産量は、冬小麦は前月に比べ1.1百万トン下方修正され34.8百万トン(対前年度比9.0%増)、また、春小麦も同0.3百万トン下方修正され9.0百万トン(同43.6%減)。一方、デュラム小麦は同0.1百万トン上方修正され1.0百万トン(同46.1%減)。7月末からのプレーンズ北部の干ばつにより、前年度に比べ、春小麦は主産地のノースダコタ州で36.7%減、モンタナ州で70.5%減、デュラム小麦はノースダコタ州で43.9%減、モンタナ州で65.7%減となった。

同「Crop Progress」(2021.10.18)によれば、10月17日時点の播種進捗率は、70%と前年度(76%)、5年平均(71%)を下回った。また、発芽進捗率は、44%と前年度(50%)、5年平均(47%)を下回った。しかし、冬小麦の主産地であるカンザス州では、作付け進捗率が75%、発芽進捗率が47%と、それぞれ5年平均の68%、46%を上回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の飼料用消費は、生産量の減少と小麦価格がとうもろこし価格に比べ高いことから、前月予測に比べ0.7百万トン下方修正され3.7百万トンの見込み。

同年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、23.8百万トンと、前年度を11.8%下回る見込み。2021/22年度当初の契約、輸出のペースは遅かったものの、同年度後半には他の主要輸出国の輸出余力の逼迫により、米国産に需要がシフトすると見られる。9月の輸出先国は、フィリピン(20.7%)、メキシコ(14.9%)、中国(9.8%)の順。

USDA「Grain Stock」(2021.9.30)によれば、9月1日現在の小麦の在庫量は、前年度同期に比べ17.5%減少の48.8百万トン。そのうち、生産量の減少と高水準な小麦価格から、農家在庫は同41%減少し、1963年以降最低の11.4百万トンとなった。また、2021/22年度(2021.6~2022.5)の期末在庫量は、2007/08年度以降最小の15.8百万トンの見込み。

小麦一米国(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.8	44.8	▲ 1.4	▲ 10.0
消費量	30.4	30.5	31.6	▲ 0.7	3.7
うち飼料用	2.6	2.6	3.7	▲ 0.7	41.7
輸出量	26.4	27.0	23.8	-	▲ 11.8
輸入量	2.8	2.7	3.4	▲ 0.3	24.5
期末在庫量	28.0	23.0	15.8	▲ 0.9	▲ 31.3
期末在庫率	49.3%	40.0%	28.5%	▲ 1.3	▲ 11.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	15.13	14.89	15.04	▲ 0.38	1.0
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.98	▲ 0.01	▲ 10.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 October 2021)

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年9月			2021年1月~9月			2020年1月~12月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
フィリピン	44.0	20.7	メキシコ	301.7	15.6	フィリピン	329.8	13.0
メキシコ	31.7	14.9	フィリピン	258.5	13.3	メキシコ	287.3	11.3
中国	20.8	9.8	中国	220.1	11.4	日本	255.6	10.1
日本	18.6	8.7	日本	185.8	9.6	中国	210.3	8.3
韓国	13.9	6.5	韓国	152.4	7.9	韓国	140.2	5.5
その他	69.4	32.6	その他	817.7	42.2	その他	1,311.9	51.7
合計	212.7	100.0	合計	1936.2	100.0	合計	2,535.2	100.0

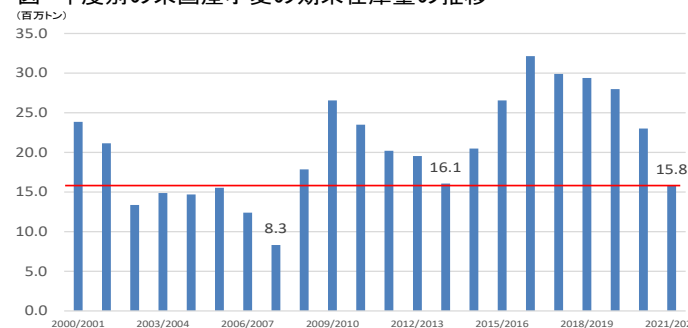
注1. 9月の輸出検証高は、9月9、16、23、30日の合計値

注2. 2021年累積輸出検証高は、2021年1月7日~9月30日の合計

注3. 2020年の累積輸出検証高は、2020年1月2日~12月31日の合計

資料: USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年10月12日)より作成。

図 年度別の米国産小麦の期末在庫量の推移



資料: USDA「PS&D」(2021. 10. 12)をもとに農林水産省で作成

< カナダ > 耕作放棄面積の増加と単収の低下で減産見通し

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.10.20)によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、21.7 百万トン。干ばつによる単収の低下と作付面積の減少、加えて耕作放棄地の増加により、前年度に比べて 38.3%減少した。品種別には、それぞれ前月予測からの変更はなく、デュラム小麦は 3.5 百万トン、普通小麦は 18.2 百万トン。USDA によれば、本年度の作付面積に対する耕作放棄地の割合は例年に比べ増加し、10.5%(前年度 1.72%)に達する見込み。

AAFC によれば、カナダ穀物委員会(CGC:Canadian Grain Commission)のサンプル調査の結果、デュラム小麦の品質は平均タンパク質含有量が 15.7%で、多くが 1 から 2 等に格付けされ、普通小麦は平均を上回るタンパク質含有量となり多くが 1 等から 2 等に格付けされた。

各州政府の報告によれば、アルバータ州では、晴天に恵まれ 10 月 12 日時点の春小麦の収穫進捗率が終了(前年度同時期 97%)。品質は、地域によって 5 年平均を上回った。サスカチュワン州では、同 4 日時点で小麦の収穫は終了。なお、降雨不足で州全体の土壌水分不足の懸念が継続。マニトバ州では、同 5 日時点で、春小麦の収穫進捗率は 99%(前年度 99%)に達した。

AMIS「Market Monitor」(2021.10.7)によれば、平原三州で同年度の春小麦の収穫は終了。継続する干ばつが懸念される中、2022/23 年度の冬小麦の播種が開始された。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度(2021 年 8 月～2022 年 7 月)の輸出量は、干ばつによる生産減から、前月に比べ 2.0 百万トン下方修正され、2012/13 年度以降最低の 15.0 百万トンの見込み。

一方、AAFC によれば、2021/22 年度の輸出量は前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 16.1 百万トン。そのうち、普通小麦は良好な品質から前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 13.0 百万トンの見込み。デュラム小麦は前月からの変更はなく、3.1 百万トン。CGC によれば、8 月の輸出量は普通小麦が 1.4 百万トン、デュラム小麦は 0.4 百万トンの 1.8 百万トン。輸出先国は、普通小麦が日本(12.9%)、エクアドル(10.9%)、インドネシア(9.6%)、デュラム小麦がモロッコ(48.9%)、イタリア(9.0%)の順。

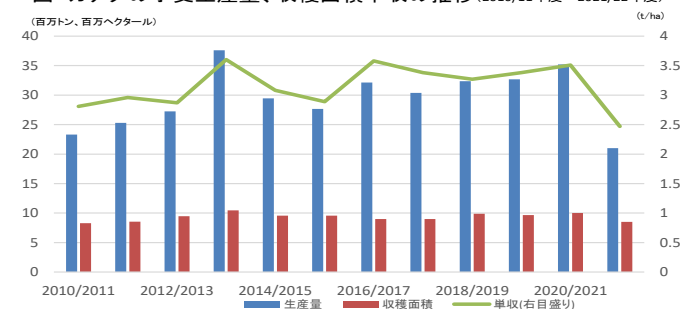
小麦－カナダ(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は AAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	32.7	35.2	21.0 (21.7)	▲ 2.0	▲ 40.3
消 費 量	9.3	9.1	7.9 (8.1)	▲ 0.1	▲ 13.5
うち飼料用	4.1	4.2	2.8 (4.0)	-	▲ 33.0
輸 出 量	24.6	26.4	15.0 (16.1)	▲ 2.0	▲ 43.2
輸 入 量	0.7	0.6	0.7 (0.2)	-	27.3
期末在庫量	5.5	5.7	4.5 (4.0)	0.1	▲ 21.1
期末在庫率	16.2%	16.0%	19.6% (16.3%)	2.0	3.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	8.50 (9.17)	▲ 0.70	▲ 15.2
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.47 (2.37)	▲ 0.03	▲ 29.6

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)
AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(20 October 2021)

図 カナダの小麦生産量、収穫面積単収の推移(2010/11年度～2021/22年度)



資料USDA「PS&D」(2021.10.12)をもとに農林水産省で作成

図 カナダの耕作放棄地面積の推移



資料 USDA「World Agricultural Production」(2021.10.12)】

< 豪州 > 生産量の増加で輸出量が増加、アジア市場向けが堅調

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、31.5百万トン。前年度に比べ4.5%減少するものの、史上第3位の豊作の見込み。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report (2021.9.7)」によれば、2021/22年度の生産量は、史上最高の前年度に比べ2%減少も、5年平均(23.6百万トン)を上回る32.6百万トンの見込み。

AMIS「Market Monitor」(2021.10.7)によれば、殆どの作付地域で、降雨があり土壌水分量が良好であることから、冬小麦は概ね良好な状態で生育している。

GIWA(西豪州穀物産業団体)によれば、2021/22年度の小麦の収穫が開始された。小麦の生産量は、9月予測(10.6百万トン)から下方修正され、10.5百万トンの見込みで、過去最高であった2016/17年度の10.6百万トンを僅かに下回るものの高水準。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測から0.5百万トン上方修正され、23.5百万トン。豪州の輸出先は、主として地理的に近く、ホワイト小麦の需要が多いアジアに集中すると見られている。米国や黒海諸国の輸出量減少の一方、豪州は2年続きの豊作により競争力のある価格で輸出が可能となったことから、もともと豪州の輸出市場であった世界第2位の小麦輸入国であるインドネシアの市場を取り戻した。加えて、カナダの生産減から、インドネシアへの輸出は今後も続くと思われる。他にも、ベトナムは食用や飼料用の需要が増加していることから、豪州の主要輸出先となっている。中国は、小麦以外の商品で貿易紛争が生じているが、豪州からは高品質小麦の輸入を継続している。また、本来、米国の市場であるフィリピンでも輸出量を伸ばしている。

アジア市場では輸送コストや輸送日数の点で他の輸出国に比べ有利であるため、十分な生産量が確保されれば、豪州の輸出は長期的に堅調に推移すると見られる。

豪州統計局によれば、8月の輸出先国は、ベトナム(20.3%)、フィリピン(14.5%)、インドネシア(11.8%)の順。

豪州産穀物への需要の集中により、輸出コストが上昇しており注視が必要。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.5	33.0	31.5	(32.0)	-	▲ 4.5
消費量	8.0	8.0	8.0	(8.7)	▲ 0.2	-
うち飼料用	4.5	4.5	4.5	(5.0)	▲ 0.2	-
輸 出 量	9.1	24.0	23.5	(23.0)	0.5	▲ 2.1
輸 入 量	0.9	0.2	0.2	(0.4)	-	-
期末在庫量	2.7	3.9	4.1	(5.1)	▲ 0.8	5.2
期末在庫率	15.6%	12.1%	13.0%	(16.2%)	▲ 2.7	0.8
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	9.86	13.00	13.10	(13.0)	-	0.8
単収(t/ha)	1.47	2.54	2.40	(2.47)	-	▲ 5.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図 豪州産小麦の生産量、輸出量、期末在庫量の推移

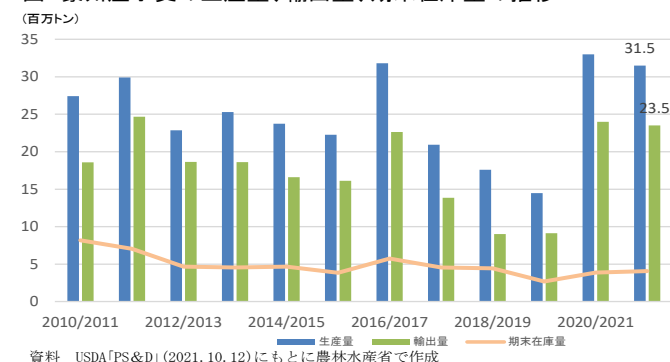


表 豪州の小麦輸出先国別輸出量

(万トン)

2021年8月			2021年1月～8月		
国名	輸出量	シェア(%)	国名	累積輸出量	シェア(%)
ベトナム	43.6	20.3	インドネシア	418.0	21.8
フィリピン	31.2	14.5	ベトナム	248.9	13.0
インドネシア	25.3	11.8	フィリピン	157.3	8.2
日本	18.1	8.4	中国	123.4	6.4
中国	14.1	6.6	タイ	87.1	4.5
その他	82.6	38.4	その他	880.5	46.0
合計	214.9	100.0	合計	1,915.2	100.0

資料：豪州統計局のデータをもとに農林水産省で加工

< EU > EU27 の生産量は前月に比べ上方修正

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.9.30)によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の生産量は、前月予測から 3.9 百万トン上方修正され、140.1 百万トン。農業市場情報システム (AMIS)「Market Database Supply and Demand Overview」(2021.10.11)によれば、英国の同年度の生産量は、前月予測から 0.9 百万トン下方修正され、14.0 百万トン。EU27 ヶ国と英国の合計生産量は 154.1 百万トンの見込み。同委員会によれば、普通小麦 (EU27) は前月に比べ 3.8 百万トン上方修正され、132.0 百万トンと前年度を 11.9% 上回る見込み。国別には、ドイツ等で下方修正されたものの、ポーランド、ルーマニア等で上方修正された。

一方、デュラム小麦は、前月に比べ 0.1 百万トン上方修正され 8.0 百万トンと同 12.2% 上回る見込み。国別にはスペインで下方修正されたものの、ドイツ等で上方修正された。

「France Agri Mer」(2021.10.11~15)によれば、普通小麦の品質は、タンパク質含有量は全国平均で 11.9% となっており、過去 5 年平均に比べ低水準となっている。また、夏の長雨の影響で水分含有率が 14% と高くなり、乾燥工程が必要となっている。クラス別の評価では、10.8% が良、15.9% がやや良、63.7% が並に格付けされている。

ドイツでは 8 月の降雨で土壌水分が十分となり、9 月には 2022/23 年度の冬小麦の作付けが進んだ。フランス、英国でも、9 月の降雨で土壌水分は回復しており、10 月 11 日現在、フランスの 2022/23 年度の作付進捗率は 13% となり、前年度同時期の 11% を上回っている。一方、夏の降雨量が平年の半分以下となったイタリアでは南部で 9 月も少雨が続いたことから、ルーマニアの一部とともにイタリアでも土壌水分不足が懸念されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、生産量の増加から、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、36.2 百万トンの見込み。EU 委員会によれば、7 月の輸出量は、普通小麦が 1.5 百万トン、デュラム小麦が 0.03 百万トン。輸出先国は、普通小麦が韓国 (20.1%)、アルジェリア (9.9%)、デュラム小麦がコートジボワール (32.6%)、サウジアラビア (11.6%)。USDA によれば、期末在庫量は出増で前月予測に比べ 0.3 百万トン下方修正され 12.7 百万トン。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位: 百万トン)

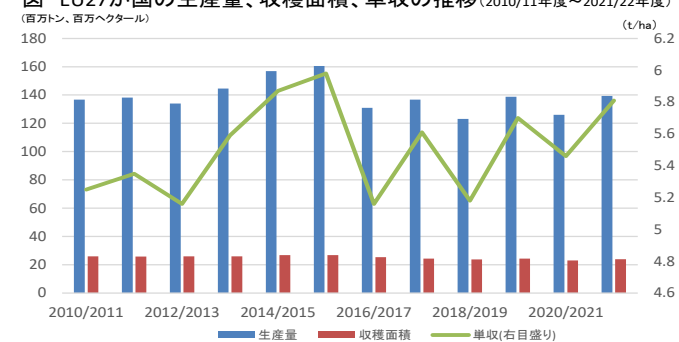
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生 産 量	154.3	135.7	154.4 (151.2)	0.4	13.8
消 費 量	122.9	117.7	124.2 (123.0)	-	5.5
うち飼料用	53.2	48.0	53.7 (50.8)	-	12.0
輸 出 量	41.4	30.2	36.2 (35.3)	0.5	19.9
輸 入 量	7.3	8.6	7.3 (7.2)	▲ 0.1	▲ 15.1
期末在庫量	15.1	11.4	12.7 (11.7)	▲ 0.3	11.4
期末在庫率	9.2%	7.7%	7.9% (7.4%)	▲ 0.1	0.2
(参考)					
収穫面積 (百万 ha)	26.16	24.47	25.73 (25.31)	0.05	5.1
単収 (t/ha)	5.90	5.54	6.00 (5.97)	-	8.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

IGC 「Grain Market Report」(23 September 2021)

表内及び () 内のデータは EU27 ヶ国+英国のデータ

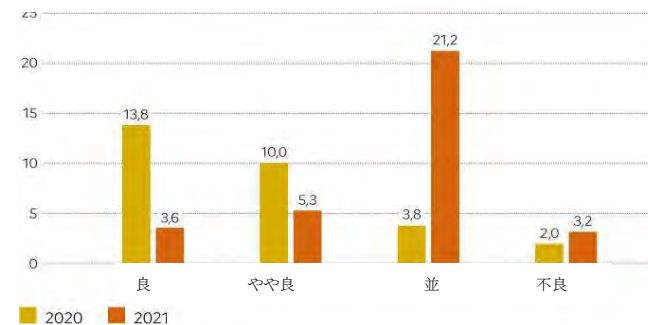
図 EU27 各国の生産量、収穫面積、単収の推移 (2010/11 年度～2021/22 年度)



資料: USDA 「PS&D」(2021.10.12)をもとに農林水産省で作成

図 フランス産普通小麦の品質クラス別の数量

(百万トン)



資料: 「France Agri Mer」(2021.10.11)

＜ 中国 ＞ 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.10.8)によれば、2021/22 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.1%増の 137.1 百万トンと史上最高の見込み。内訳は、冬小麦が前年度比 1.9%増の 129.3 百万トン、春小麦は同 4.9%増の 7.8 百万トン。

なお、2021/22 年度の小麦の収穫は終了した。

中国中央气象台(2021.10.12)によれば、2022/23 年度の冬小麦の播種が開始された。10 月 11 日現在、播種進捗率は 11.4%であるが、頻繁な降雨のため、前年度同時期に比べて 7.9 ポイント、例年に比べて 20 ポイント下回っている。省別には、山東省、河南省では播種が開始され、江蘇省、山西省では播種進捗率がそれぞれ約 20%、約 10%となっている。

【貿易情報・その他】中国糧油情報センターによれば、2021/22 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 1.2%減少の 145.5 百万トン(飼料用は同 5.3%減少の 36.0 百万トン)の見込み。また、2021/22 年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 23.3%減少の 8.0 百万トンの見込み。中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 8 月の小麦輸入量は前年同時期(4.8 百万トン)から 44.3%増の 6.9 百万トンとなった。同期間の輸入先国は、カナダ(32.4%)、米国(29.6%)、豪州(24.7%)の順で、この 3 カ国で全体の 86.7%を占めている。一方、前年度 1 位であったフランスは、5 月から 8 月の間は実績がない。

国家発展改革委員会(2021.9.30)によれば、2022 年の小麦の輸出関税割当て数量は、2021 年と変わらず 963.6 万トンで割当内関税率は 1 %。また、輸入関税割当以外の最恵国関税(WTO 内)は 65%、その他の普通関税は 180%。なお、関税割当数量のうち、国家貿易比率は 90%である。

中国農産品供需形勢分析月報(8 月)によれば、8 月の国内小麦価格は、国内市場において小麦粉消費の需要の高まりとともに、加工企業の稼働率が上昇し、10月の国慶節に向けた季節的な在庫補充需要で小麦価格は上昇した。一方、9 月には小麦粉消費はピークに入るものの、小麦価格が高く加工業者の収益が低くなるため、購入意欲は低下している。今後、国内小麦価格は短期的に高水準を保ちながら、上下する見通し。

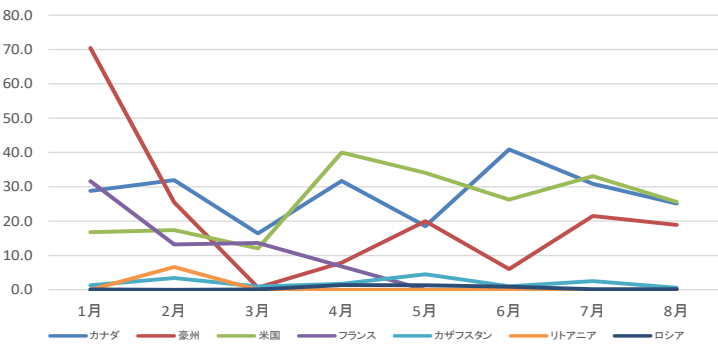
小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	133.6	134.3	136.9 (137.1)	-	2.0	
消 費 量	126.0	150.0	149.0 (145.5)	-	▲ 0.7	
うち飼料用	19.0	40.0	36.0 (32.4)	-	▲ 10.0	
輸 出 量	1.1	0.8	1.0 (1.3)	-	31.6	
輸 入 量	5.4	10.6	10.0 (9.6)	-	▲ 5.8	
期末在庫量	150.0	144.1	141.0 (128.1)	-	▲ 2.2	
期末在庫率	118.1%	95.6%	94.0% (87.3%)	-	▲ 1.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.80 (23.8)	-	1.8	
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.75 (5.76)	-	0.2	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)
IGC 「Grain Market Report」(23 September 2021)

図 中国の小麦輸入先国の推移(2021年1月～同年8月)



	2021年8月			2021年1月～2021年8月			2020年1月～2020年12月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	米国	25.6	36.4	カナダ	224.4	32.4	フランス	238.3	29.2
2	カナダ	25.1	35.7	米国	205.3	29.6	カナダ	229.7	28.2
3	豪州	18.9	26.8	豪州	170.9	24.7	米国	178.4	21.9
4	カザフスタン	0.6	0.9	フランス	65.4	9.4	豪州	109.0	13.4
5	ロシア	0.2	0.3	カザフスタン	16.2	2.3	リトアニア	33.3	4.1
6	フランス	0.0	0.0	リトアニア	6.6	1.0	カザフスタン	19.2	2.4
7	リトアニア	0.0	0.0	ロシア	4.2	0.6	ロシア	7.2	0.9
計		70.5	100.0		693.0	100.0		815.2	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 生産量は前年度を下回るも品質は良好

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量(クリミア分は含まない)は、前月予測からの変更はなく、前年度に比べ 15.1%減少の 72.5 百万トンの見込み。作期別の生産量は、冬小麦は 50.5 百万トン、春小麦は 22.0 百万トンの見込み。

ロシア農業省の速報値によれば、10月13日現在の小麦収穫面積は 27.2 百万ヘクタール(収穫進捗率は 83.9%)、収穫量(調製前)は 76.5 万百万トンである。

現地情報会社によれば、10月8日時点で、シベリア管区で 70 万 ha 以上、沿ヴォルガ管区で 60 万 ha 以上、ウラル管区で 30 万 ha が9月末からの降雨・降雪で未収穫面積となっているため、本年度の収穫予測が引き下げられる可能性がある。

ロシア穀物品質評価センターによれば、10月4日までに収穫された 71.1 百万トンの 50.3%にあたる 35.8 百万トンを検査したところ、1等及び2等は 0.12%(前年同日 0.20%)、3等は 46.9%(同 33.4%)、4等は 41.0%(同 39.3%)、主に飼料用の5等は 11.9%(同 27.0%)であり、1～4等の比率は 88.0%と前年同日時点の 71.7%を大きく上回り、品質は高水準となる見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、35.0 百万トンの見込み。本年度は、輸出先国別では、干ばつに見舞われたイランからの需要が増加する見込み。ロシア連邦税関庁の速報値によれば、ロシアの8月の小麦輸出量は前月の 1.9 百万トンから大幅に増加し 5.3 百万トンとなり、前年度同月(4.7 百万トン)を 11.9%上回った。現地輸送会社及び情報会社によれば、この輸出量の増加は、南部での豊作、品質の高さ、国際相場の上昇、トルコ、サウジアラビア、イランの需要が伸びたことや、輸出関税が上昇する前の駆け込み輸出の増加のためである。10月以降は、国際相場にもよるが、輸出関税が上昇したことを背景に、輸出用に確保していた在庫を国内向けに販売する業者が増えると見られている。

ロシア農業省市場調整局によれば、穀物の可変輸出関税制度は 2021/22 年度の全期にわたり維持される。さらに、2022 年 2 月 15 日から 6 月 30 日まで、穀物輸出に数量枠の設定が検討されている。パトルシェフ農相は、「来年 2 月からは穀物輸出枠が設定されるが、ロシアは輸出を継続できるだけの収穫を得られる」と発言した。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	73.6	85.4	72.5 (75.0)	-	▲ 15.1	
消費量	40.0	42.5	40.5 (41.7)	0.5	▲ 4.7	
うち飼料用	17.0	19.0	17.5 (17.3)	0.5	▲ 7.9	
輸 出 量	34.5	38.5	35.0 (34.1)	-	▲ 9.1	
輸 入 量	0.3	0.4	0.5 (0.3)	-	25.0	
期末在庫量	7.2	12.0	9.5 (12.3)	▲ 0.4	▲ 20.9	
期末在庫率	9.7%	14.8%	12.6% (16.2%)	▲ 0.8	▲ 2.2	

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	28.00 (28.0)	-	▲ 2.4
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.59 (2.68)	-	▲ 13.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)
IGC 「Grain Market Report」(23 September 2021)

図 ロシア産小麦の可変輸出関税額の推移

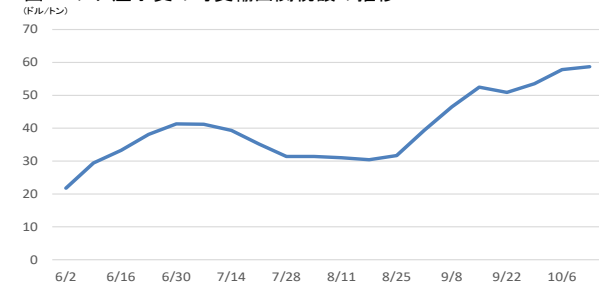
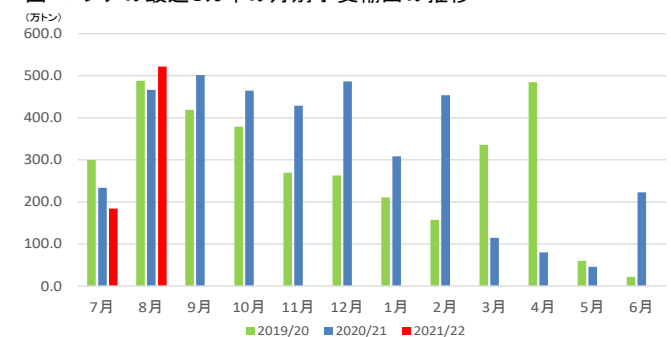


図 ロシアの最近3カ年の月別小麦輸出の推移



資料 ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナ、ロシア等で下方修正も、EU、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

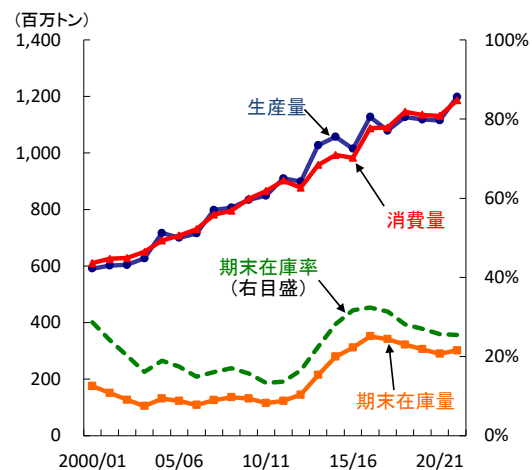
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・バングラデシュ等で上方修正も、米国、ベトナム等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナ等で下方修正も、インド、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.10.12）をもとに農林水産省にて作成

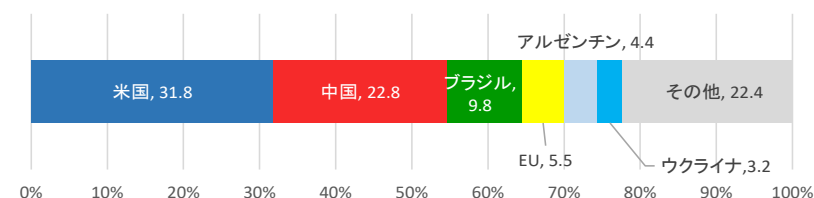
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

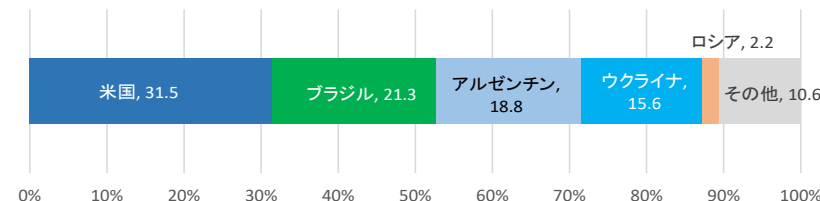
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,118.6	1,115.5	1,198.2	0.5	7.4
消費量	1,135.1	1,131.6	1,186.5	▲ 0.2	4.8
うち飼料用	715.9	723.3	746.2	▲ 3.1	3.2
輸出量	172.4	178.0	201.9	0.6	13.5
輸入量	167.6	186.4	183.9	▲ 2.1	▲ 1.4
期末在庫量	306.1	290.0	301.7	4.1	4.1
期末在庫率	27.0%	25.6%	25.4%	0.3	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 October 2021）

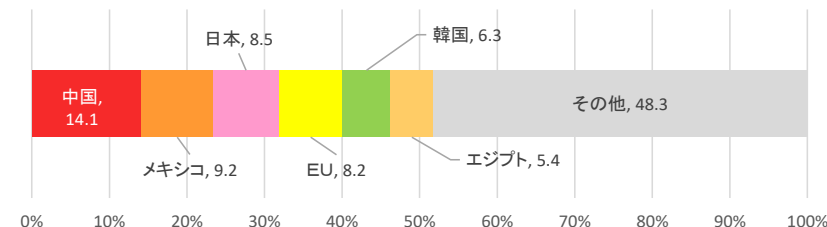
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,198.2百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(201.9百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(183.9百万トン)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積増、単収上方修正で生産量史上第２位、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、アイオワ州、ミネソタ州、ネブラスカ州等の単収が前月予測から上方修正されたことから、前月予測から0.6百万トン上方修正され、前年度より6.4%増の381.5百万トンと2016/17年度に次ぐ史上第２位の見込み。

「Crop Progress」(2021.10.18)によれば、収穫期の好天に恵まれ、10月17日現在の主要18州における成熟進捗率は97%と前年度同期(97%)並みで、過去5年平均(93%)より進んでいる。収穫進捗率は52%と前年度同期(57%)より遅れているものの、過去5年平均(41%)より進んでいる。作柄評価は、生育期のコーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が60%と前年度同期(61%)を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の飼料用消費量は、前年度消費の低下傾向を反映し前月予測から1.3百万トン下方修正されたものの、前年度より増加する見込み。一方、国内のワクチン接種の進展に伴い、自動車を運転する機会が増加することによる燃料用エタノールの需要増からエタノール向け需要は前年度より増加することから、消費量全体では前年度より1.8%増の311.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正及び同時期のブラジル、ロシア、ウクライナの輸出量の下方修正に伴う輸出競争の減少予想から、前月予測から0.6百万トン上方修正されたものの、史上最高の輸出量となった前年度より9.2%減の63.5百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～9月30日)は、53.1百万トンであり、内訳は中国(16.3百万トン)、メキシコ(11.4百万トン)、日本(9.3百万トン)、韓国(3.1百万トン)の順である。なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受けたが、おおむね復旧しているとみられる。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、供給量の上方修正と需要量の下方修正により、前月予測から2.3百万トン上方修正され、前年度より21.3%増の38.1百万トンの見込み。なお、期末在庫率は10.1%で依然として低水準の見込み。

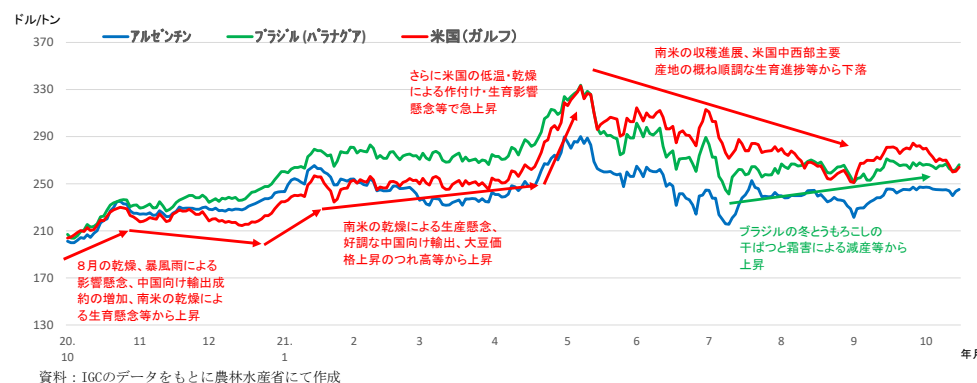
とうもろこしー米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	346.0	358.5	381.5	0.6	6.4
消費量	309.6	306.5	311.9	▲ 1.1	1.8
うち飼料用	149.9	142.2	143.5	▲ 1.3	0.9
エタノール用等	123.4	127.8	132.1	—	3.3
輸 出 量	45.1	69.9	63.5	0.6	▲ 9.2
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	—	3.2
期末在庫量	48.8	31.4	38.1	2.3	21.3
期末在庫率	13.7%	8.3%	10.1%	0.6	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.31	34.43	—	3.4
単収(t/ha)	10.51	10.76	11.08	0.02	3.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



＜ ブラジル ＞ 収穫面積増、単収増で生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より37.2%増の118.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

CONAB月例報告(2021.10.7)によれば、現在作付けされている2021/22年度の夏とうもろこしの生産量は、作付面積及び単収の増加により、前年度比14.5%増の28.3百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けされる冬とうもろこしの生産量は、前年度比41.3%増の88.0百万トンが見込まれ、合計では前年度比33.7%増の116.3百万トンで史上最高の見込み。(P.21 大豆－ブラジルのクロップカレンダー参照)。

10月上旬から中旬にかけてブラジル中西部・南部の主産地で広く降雨があり、作付け・発芽を促した。夏とうもろこしの作付進捗率は、南部のパラナ州で10月18日現在88%、南部のリオ・グランデ・ド・スール州で10月14日現在65%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より4.3%増の73.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度より115.0%増の43.0百万トンで史上最高の見込み。なお、2020/21年度の実輸出量は、生産量の減少に伴い、前月予測から2.0百万トン下方修正され、20.0百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年1～9月の輸出量は12.8百万トンで、前年同期(19.8百万トン)と比べ35.4%減となっている。内訳は、1位がイラン2.1百万トン、2位がスペイン1.6百万トン、3位がエジプト1.5百万トンとなっている。

とうもろこし－ブラジル

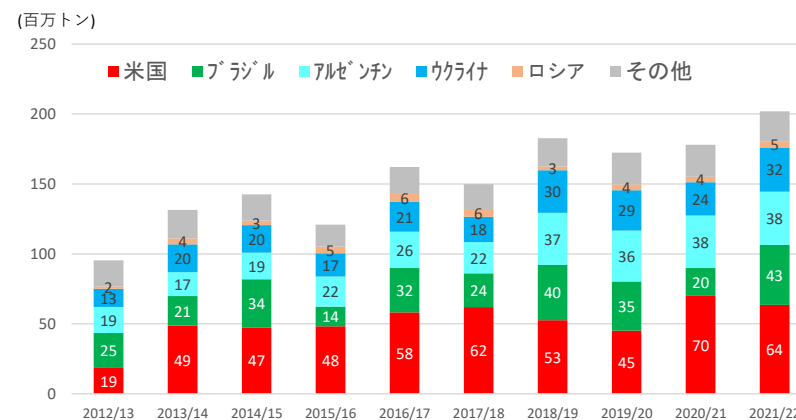
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	86.0	118.0	(117.4)	-	37.2
消 費 量	68.5	70.0	73.0	(76.2)	-	4.3
うち飼料用	58.5	60.0	62.0	(55.7)	-	3.3
輸 出 量	35.2	20.0	43.0	(40.0)	-	115.0
輸 入 量	1.7	3.5	1.7	(0.5)	-	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	4.7	8.4	(5.9)	-	78.2
期末在庫率	5.0%	5.3%	7.3%	(5.1%)	-	2.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.83	20.80	(20.60)	-	4.9
単収(t/ha)	5.51	4.34	5.67	(5.70)	-	30.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.10.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 生産量史上最高も輸出税継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 6.0%増の 53.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.10.21）によれば、最近作付けられた圃場は生育にさらに降雨が必要。産地の南部は作付けに適した土壌水分量となっている。作付進捗率は 26%で、過去 5 年平均より 7 ポイント遅れている。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 3.6%増の 14.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 1.3%増の 38.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1 ～ 8 月の輸出量は 27.1 百万トンで、前年同期（29.0 百万トン）より 6.3%減。内訳は、1 位がベトナム 4.4 百万トン、2 位がエジプト 2.9 百万トン、3 位が韓国 2.5 百万トン。7 月 26 日に 180 日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12%へ引き上げ、その後継続している。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	51.0	50.0	53.0 (63.3)	-	6.0	
消 費 量	13.5	14.0	14.5 (22.6)	-	3.6	
うち飼料用	9.5	10.0	10.5 (17.6)	-	5.0	
輸 出 量	36.3	37.5	38.0 (37.0)	-	1.3	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	3.6	2.1	2.6 (9.0)	-	24.1	
期末在庫率	7.3%	4.1%	5.0% (15.1%)	-	0.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.30	6.40	6.50 (8.30)	-	1.6	
単収(t/ha)	8.10	7.81	8.15 (7.63)	-	4.4	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)
IGC 「Grain Market Report」(23 September 2021)

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの作付け風景
(9月19日撮影)



< 中国 > 収穫面積増、単収増で生産量史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より4.7%増の273.0百万トンと史上最高の見込み。

中国糧油情報センター（2021.10.8）によれば、9月は東北地区の大部分は晴天と雨天が交互する温暖な天候で登熟・成熟に有利であったが、一部地域では日照が少なく、強い降雨があり、倒伏被害が発生した。中国中央气象台（2021.10.8）によれば、10月上旬現在、東北地区の春とうもろこしは概ね収穫が終了している。河南省等の夏とうもろこしは、乳熟期から成熟・収穫期に入っている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より3.2%増の294.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.1%減の26.0百万トンの見込み。なお、2020/21年度の輸入量は貿易実績を元に前月予測から2.0百万トン上方修正され、28.0百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～8月の輸入量は21.4百万トンで、前年同期の3.8倍となり、前年の年間輸入量の1.9倍。内訳は、米国産14.3百万トン（67%）、ウクライナ産7.0百万トン（33%）で、前年同期はウクライナ産が85%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報8月号」によると、8月の国内流通価格は、2,820元/トンと、依然として、高水準で推移した。しかしながら、今後の見通しについては、「新穀が続々と市場に入り、市場供給はさらに増加する一方、小麦の代替供給の存在や、飼料需要やトウモロコシ深度加工企業の需要の弱まりにより、国内市場価格は弱含み」とされている。一方、8月の外国産価格は2,560元/トンと前月（2,840元/トン）から大幅に下落した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

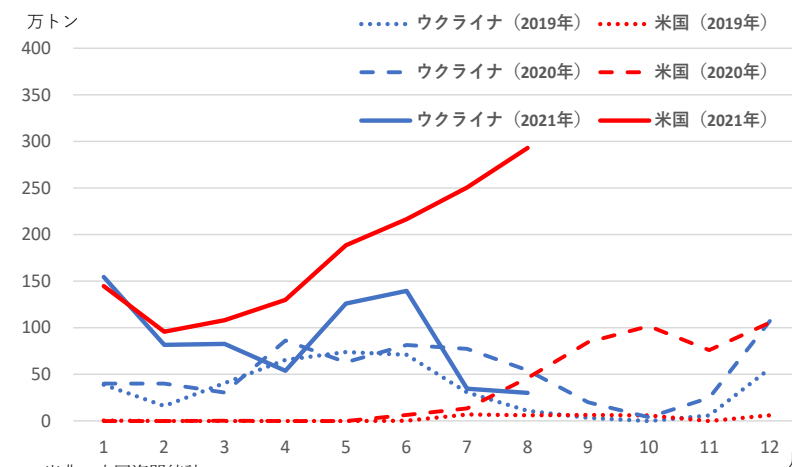
とうもろこし—中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	260.8	260.7	273.0 (272.8)	-	4.7	
消費量	278.0	285.0	294.0 (296.2)	-	3.2	
うち飼料用	193.0	203.0	214.0 (192.0)	-	5.4	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	100.0	
輸 入 量	7.6	28.0	26.0 (16.5)	-	▲ 7.1	
期末在庫量	200.5	204.2	209.2 (186.9)	2.0	2.4	
期末在庫率	72.1%	71.6%	71.1% (63.1%)	0.7	▲ 0.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	42.00 (42.90)	-	1.8	
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.50 (6.36)	-	2.8	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

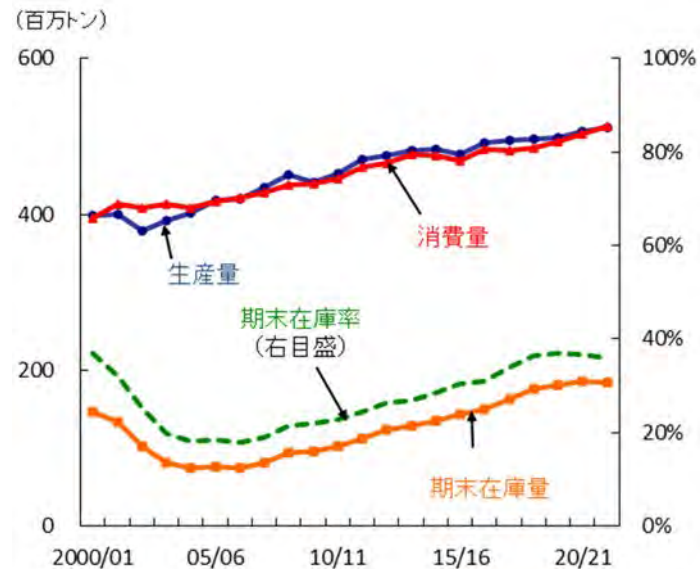
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パキスタン等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.10.12）をもとに農林水産省にて作成

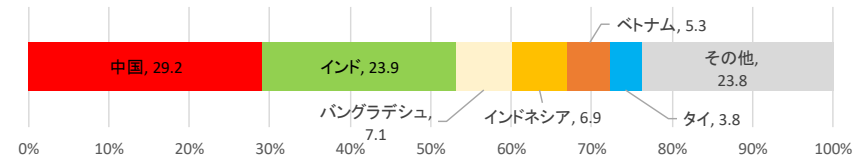
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

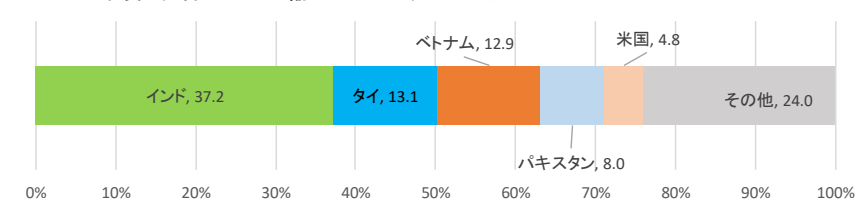
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	498.3	506.4	510.7	2.8	0.8
消 費 量	493.2	503.0	512.3	0.2	1.9
輸 出 量	43.4	49.1	49.7	1.2	1.3
輸 入 量	42.3	46.4	46.8	0.9	0.8
期末在庫量	181.8	185.2	183.6	1.8	▲ 0.9
期末在庫率	36.9%	36.8%	35.8%	0.3	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 October 2021)

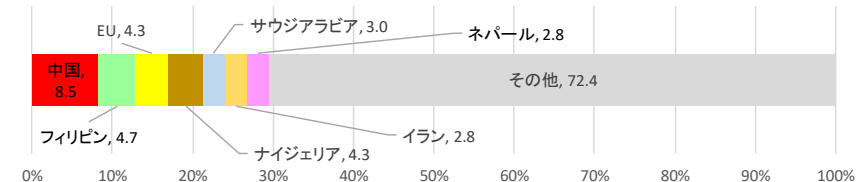
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(510.7百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(49.7百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(46.8百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 中米における米国産コメのシェアが低下

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比16.3%減少の6.1百万トンの見込み。中・短粒種の生産量はコメ全体の約25%を占める。同「Crop Progress」(2021.10.18)によれば、10月17日時点の主要生産6州の収穫進捗率は92%で過去5年間平均(91%)より1ポイント進んでいる。なお、中・短粒種の主産地であるカリフォルニア州の収穫進捗率は95%で過去5年間平均(73%)より22ポイント進んでいる。同「Crop Production」(2021.10.12)によれば、単収は前年度を上回り、特にカリフォルニア州とミズーリ州で単収が史上最高となる見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、消費量は前月予測から若干下方修正され、対前年度比4.3%減の4.6百万トンの見込み。輸出量は前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の2.9百万トンの見込み。輸入量は、コンテナ不足や海上運賃の高騰によると見られるタイ産香米の輸入量減少により、前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比5.6%増の1.1百万トンの見通し。

同「Grain:World Markets and Trade」(2021.10.12)によれば、中米(コスタ・リカ、ホンジュラス、エル・サルバドル、グアテマラ、ニカラグラ及びパナマ)は、南北アメリカ大陸における重要な輸入地域であり、米国は中米諸国と自由貿易協定を締結しているが、同地域における米国のシェアが低下している。一方、この10年で南米の輸出競合国(ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ及びアルゼンチン)が、コメの輸出価格や地理的な優位性から輸出を拡大しており、2020年には著しく増加した。コメの生産量が減少している米国が、今後も中米で過半数のシェアを維持出来るかどうかの正念場である。

同「Rice Outlook」(2021.10.14)によれば、10月5日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、碎米4%混入、国内精米)の価格は、先月からの変更はなく、2009年6月以来の高値である1,125ドル/トン。10月5日までの週のイラク向け長粒種(2等、碎米4%混入)の価格については、7月20日までの週からの変更はなく600ドル/トンとなっている(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメー米国

主に中・短粒種はカリフォルニア州、長粒種はミシシッピ川沿いで栽培
全米のコメ生産に占めるカリフォルニア州の生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.1	-	▲ 16.3
消費量	4.6	4.9	4.6	▲ 0.0	▲ 4.3
輸出量	3.0	3.0	2.9	-	▲ 3.0
輸入量	1.2	1.1	1.1	▲ 0.1	5.6
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	▲ 0.0	▲ 23.7
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.1%	▲ 0.3	▲ 3.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	-	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.55	-	0.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

写真: アーカンソー州でのコメの収穫風景



10月2日撮影のアーカンソー州デルタでの収穫風景。この地域では温暖で乾燥した天候が続き、コメの収穫作業が進んでいる。

< インド > 収穫面積と単収の上方修正により生産量は史上最高

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積及び単収が前月予測からそれぞれ1%程度上方修正されたことにより、前月予測から3.0百万トン上方修正され、対前年度比2.2%増の125.0百万トンで史上最高の見込み。

同「World Agricultural Production」(2021.10.12)によれば、2021年のカリフ作の作付は、南東部のモンスーンの到来遅れのため例年より一か月程度遅れたものの、その後改善され、9月上旬には前年を若干上回るとともに、過去5か年を5%上回る進捗率となった。カリフ作の50%の生産量を占める北部の灌漑地域では、モンスーンの遅れの影響は平年以下であった。9月の大雨は、インドの降雨量不足を補い、南部における作付を促した。その後、コメ生産全体の90%を占めるカリフ作の作付が9月中旬までに完了し、作付が早かったコメについては収穫が始まっている。残りの10%を占めるラビ作は11月に作付が開始され、来年3月中旬に収穫される見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は前月予測からの変更はなく、対前年度比2.3%増の105.0百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正や豊富な在庫により前月予測から1.5百万トン上方修正され、対前年度比7.5%減の18.5百万トンの見込みも史上2番目の高水準。2020/21年度の輸出量は、バングラデシュ、ネパール、中東及びサブサハラアフリカへの輸出の増加により1.0百万トン上方修正され20.0百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の期末在庫量は、生産量の上方修正により0.5百万トン上方修正され、対前年度比4.5%増の35.0百万トンで史上最高の見込み。

USDA「Rice Outlook」(2021.10.14)によれば、インド産米(碎米5%混入)の10月5日までの週の価格は9月7日までの週より15ドル下落し355ドル/トン(P18)の「長粒種のFOB価格の推移」を参照。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

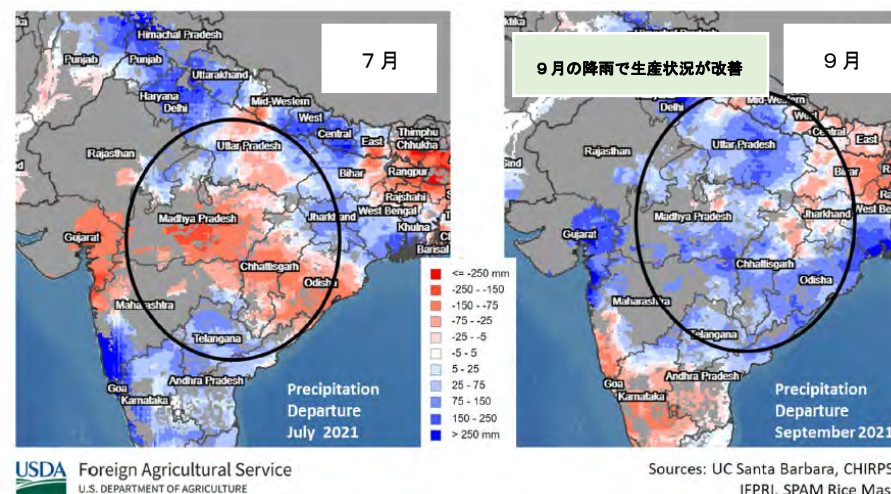
(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	118.9	122.3	125.0	(123.8)	3.0	2.2
消 費 量	102.0	102.7	105.0	(107.6)	-	2.3
輸 出 量	12.5	20.0	18.5	(15.6)	1.5	▲ 7.5
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	33.9	33.5	35.0	(25.7)	0.5	4.5
期末在庫率	29.6%	27.3%	28.3%	(20.8%)	0.1	1.0
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.66	45.00	45.50	(44.50)	0.50	1.1
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.12	(2.78)	0.05	1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

IGC「Grain Market Report」(23 September 2021) (単収は精米t/ha)

図: インドの7月と9月の降水量の分布



資料: USDA「World Agricultural Production」(2021.10.12)

< 中国 > インドからの輸入量が前月予測から拡大

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

国家糧油情報センター（2021.10.8）等によれば、9月は全国の大部分で農産地の天候条件が良好で、全体的に一期作稲の登熟・成熟・収穫・乾燥に有利であった。9月末に新穀早稲の農家売り渡しが終了し、今年は市場価格が高かったため、早稲インディカ粳の政府による最低価格買付は実施されなかった。

中国中央气象台（2021.10.8）によれば、9月30日から10月6日の間に、江蘇、安徽、浙江、福建、江西、湖南、広西、広東等地区的二期作晩稲の大部分は出穂から乳熟期に入っており、全国二期作晩稲の一、二類の苗の割合は12%と86%で、前年同期（11%と86%）比、一類は1ポイント向上し、二類は前年並みであった。また、湖北、安徽、江蘇、浙江等地区的の一期作稲の大部分は出穂から乳熟期に入っており、一部は成熟期に入っている。吉林、黒龍江、遼寧、内モンゴル、四川、貴州、雲南等地区的の一期作稲は成熟・収穫期に入っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は0.6百万トン下方修正され、対前年度比3.0%増の155.1百万トンで史上最高の見込み。

USDAによれば、2021/22年度の輸出量は前月予測からの変更はなく、前年度比8.1%増の2.4百万トンの見込み。2021/22年度の輸入量は、インドからの輸入の増加により0.4百万トン上方修正され、対前年度比11.1%減の4.0百万トンの見込み。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」（2021年8月）によれば、8月に全国の食糧備蓄倉庫が積極的に市場で買付したため、早稲インディカ粳の価格が大幅に上昇し、中晩稲インディカ粳とジャポニカ粳市場の売買が徐々に新穀に移行する中、備蓄倉庫と加工業者が旧穀の在庫調整を加速させたため、晩稲インディカ粳とジャポニカ粳の価格は小幅に下落した。コメの末端需要は依然として低迷しており、コメの精米業者が在庫の消化を早めるために値下げをしたことでコメの価格は下落した。2021年8月の全国平均品種別米卸売価格はそれぞれ早稲インディカ米 3,820 元/トン、晩稲インディカ米 4,200 元/トン、一期作ジャポニカ米 3,980 元/トンになっている。

※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.7	148.3	149.0 (150.4)	-	0.5
消費量	145.2	150.6	155.1 (151.4)	▲ 0.6	3.0
輸出量	2.6	2.2	2.4 (2.5)	-	8.1
輸入量	2.6	4.5	4.0 (3.4)	0.4	▲ 11.1
期末在庫量	116.5	116.5	112.0 (109.2)	1.0	▲ 3.9
期末在庫率	78.8%	76.2%	71.1% (70.9%)	0.9	▲ 5.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	30.00 (30.11)	-	▲ 0.3
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.10 (5.00)	-	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 October 2021)

IGC「Grain Market Report」(23 September 2021) (単収は精米t/ha)

写真：黒龍江省水稻圃場の収穫風景



降雨により収穫が例年より1週間程度遅れ9月26日頃から開始されたものの、台風などの災害がなかったことや収穫が遅れたことで水稻の生長周期が長くなり、例年より収穫量が増えた模様。

< タイ > タイ商務省の見通しは 2020/21 年度に 6 百万トン を輸出

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、18.9 百万トンと対前年度比 6.8% の増加の見込み。一方、2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.4% 増の 19.5 百万トンの見込み。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.10.18)によれば、タイでは台風 Kompasu の恩恵を受けて貯水池の水量が改善し、成熟していない稲の生育を助けた。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.4% 増の 13.0 百万トンの見込み。2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 16.1% 増の 6.5 百万トンとなることでベトナムの輸出量(6.4 百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第 2 位のコメ輸出国となる見通し。

タイ商務省は、2021 年 1～9 月に合計 3.7 百万トンの米を輸出し、10～12 月には毎月 70 万トンを超える米の輸出を見込んでいる。そのため、2021 年に 6 百万トン輸出するという目標を達成出来ると見込んでいる。2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測から若干上方修正され、対前年度比 4.2% 増の 4.9 百万トンの見込み。

タイ米輸出業協会によれば、2021 年 1 月から 8 月までの輸出量は、前年同期比 24.3% 減少の 317.9 万トン。輸出先国は、南アフリカ(46.3 万トン)、米国(33.6 万トン)、中国(26.3 万トン)の順となっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.10.14)によれば、10 月 4 日までの週のタイ産米(長粒、2 等丸米)の輸出価格は、中国からのうるち精米及びもち米の引き合いや西アフリカからの白米やパーボイルド米への新規需要があったにも拘わらず、バーツ安により 9 月 6 日までの週より 4 ドル/トン下落し 397 ドル/トンとなっている。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位: 百万精米トン)

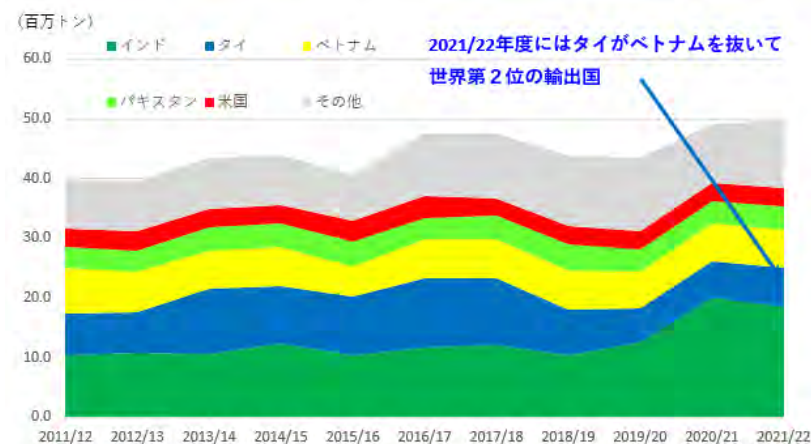
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	17.7	18.9	19.5	(19.5)	-	3.4
消 費 量	12.3	12.7	13.0	(11.9)	-	2.4
輸 出 量	5.7	5.6	6.5	(7.7)	-	16.1
輸 入 量	0.3	0.2	0.2	(0.3)	-	-
期末在庫量	4.0	4.7	4.9	(7.1)	0.0	4.2
期末在庫率	22.1%	25.9%	25.3%	(36.4%)	0.2	▲ 0.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.51	10.50	(10.53)	-	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	2.70	2.72	2.81	(1.85)	-	3.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(12 October 2021)

IGC「Grain Market Report」(23 September 2021) (単収は精米t/ha)

図: 世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2021.10.12)をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > 船積み契約や政府買入等によりコメ価格が上昇

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく対前年度比1.1%増の27.4百万トンの見込み。2021/22年度(2022年1月～2022年12月)の生産量は前月からの変更はなく、対前年度比1.2%減少の27.1百万トンの見込み。夏秋作コメの収穫は事実上終了したと見られる。

ベトナム農業・農村開発省によれば、2021年の生産量のうち冬春作は20.6百万トン、夏秋作は9.3百万トンになる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、価格の上昇や船積みの遅れにより、前月予測から0.1百万トン下方修正され、前年度並みの6.2百万トンの見込み。また2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.2%増の6.4百万トンの見込み。2020/21年度の輸入量は、ベトナム産より安価なインド産への強い引き合いにより前月予測から0.1百万トン上方修正され、前年度の4倍を超える1.3百万トンの見込み。また、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比60%減の0.5百万トンの見込み。2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比4.4%減の2.2百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2021年1月から9月の間のコメの輸出量は457.3百万トンとなり、上位をフィリピン(182.6万トン)、中国(84.6万トン)、ガーナ(44.2万トン)が占めている。

USDA「Rice Outlook」(2021.10.12)によれば、ベトナム産米(長粒種、5%碎米混入)の10月5日までの週の価格は、キューバ、フィリピン及びマレーシア向け輸出船積み契約や新型コロナウイルス感染症に影響を受けた地域への配給に伴う国家備蓄の積み増しのための政府買入の継続により、9月7日までの週より30ドル/トン上昇し、435ドル/トンとなった。

ベトナム税関総局によれば、ジャポニカ米の2021年1月～8月の輸出量は、対前年同期比52.4%減の9.4万トンになっている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.4	27.1 (28.3)	-	▲ 1.2
消費量	21.3	21.4	21.3 (22.6)	-	▲ 0.5
輸出量	6.2	6.2	6.4 (6.4)	-	3.2
輸入量	0.4	1.3	0.5 (0.6)	-	▲ 60.0
期末在庫量	1.2	2.3	2.2 (3.3)	▲ 0.1	▲ 4.4
期末在庫率	4.3%	8.2%	7.8% (11.4%)	▲ 0.2	▲ 0.4

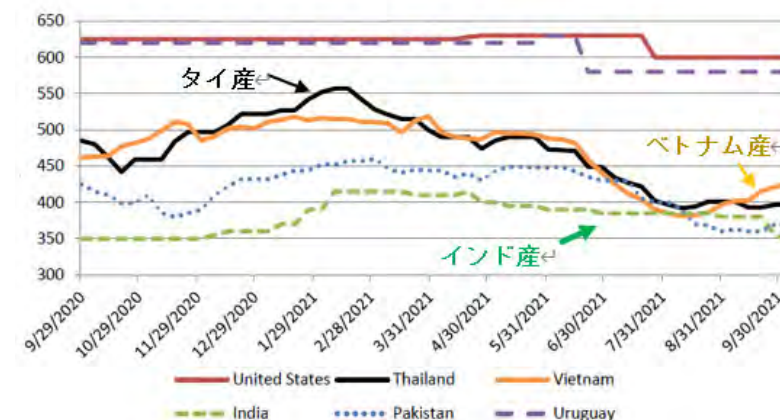
(参考)

収穫面積(百万ha)	7.38	7.36	7.35 (7.45)	-	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.88	5.96	5.90 (3.80)	-	▲ 1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

IGC「Grain Market Report」(23 September 2021) (単収は精米t/ha)

図: 長粒種のFOB価格の推移(インド産と他国産の価格差が拡大)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2021.10.12)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・アルゼンチン等で下方修正も、米国で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

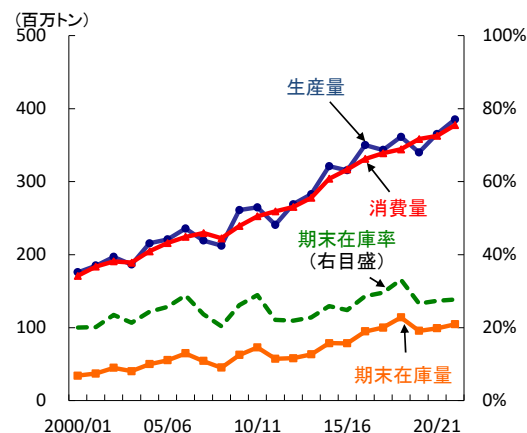
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.10.12）をもとに農林水産省で作成

◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

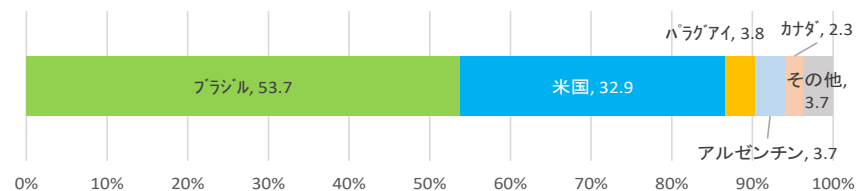
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	339.9	365.3	385.1	0.7	5.4
消 費 量	358.4	362.6	377.3	▲ 1.1	4.1
うち搾油用	312.5	315.6	328.4	▲ 1.0	4.0
輸 出 量	165.1	164.9	173.1	▲ 0.1	5.0
輸 入 量	165.0	165.9	170.6	▲ 0.3	2.9
期末在庫量	95.5	99.2	104.6	5.7	5.5
期末在庫率	26.6%	27.3%	27.7%	1.6	0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 October 2021）

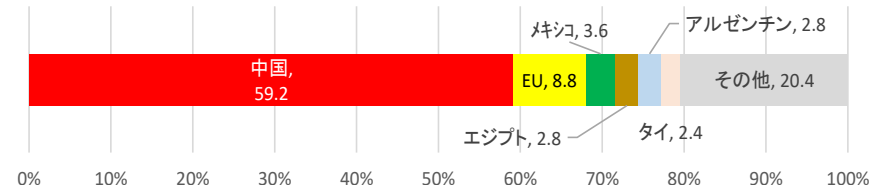
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (385.1 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (173.1 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (170.6 百万トン)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 収穫面積増、単収上方修正で生産量史上最高、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、アイオワ州、カンザス州、ミネソタ州、ネブラスカ州等での単収の上方修正から、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され、前年度より 5.5%増の 121.1 百万トンと史上最高の見込み。「Crop Progress」(2021.10.18)によれば、収穫期の好天に恵まれ、10月17日現在の主要18州における落葉進捗率は、95%と前年度同期（96%）より遅れているものの、過去5年平均（95%）並みとなっている。収穫進捗率は、60%と前年度同期（73%）より遅れているものの、過去5年平均（55%）より進んでいる。また、最終報告となる10月10日現在の作柄評価は、生育期のコーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が 59%と前年度同期（63%）を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の上方修正と価格低下により搾油用需要が前月予測から 0.3 百万トン上方修正され、前年度より 3.1%増の 62.9 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫の減少に伴う供給量の減少及び国内消費の増加に伴い、史上最高の輸出量となった前年度より 7.8%減の 56.9 百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高（2021年1月7日～9月30日）は、22.1 百万トンであり、内訳は中国（8.7 百万トン）、メキシコ（3.1 百万トン）、エジプト（1.5 百万トン）、インドネシア（1.5 百万トン）、日本（1.4 百万トン）の順。なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受けたが、おおむね復旧しているとみられる。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から 3.7 百万トン上方修正され、前年度より 25.0%増の 8.7 百万トンの見込み。期末在庫率は 7.3%で依然として低水準の見込み。

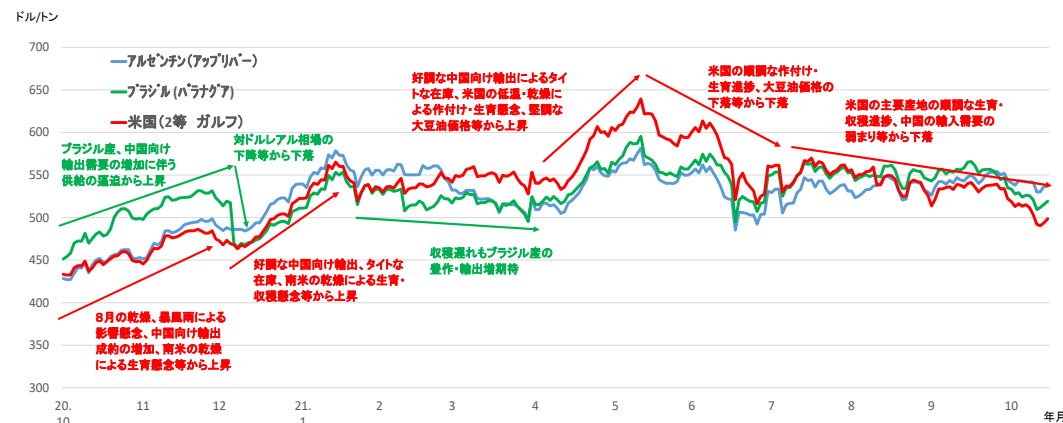
大豆－米国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	96.7	114.8	121.1	2.0	5.5
消費量	61.9	60.9	62.9	0.3	3.1
うち搾油用	58.9	58.3	59.6	0.3	2.3
輸出量	45.7	61.7	56.9	－	▲ 7.8
輸入量	0.4	0.5	0.4	▲ 0.3	▲ 24.1
期末在庫量	14.3	7.0	8.7	3.7	25.0
期末在庫率	13.3%	5.7%	7.3%	3.1	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.43	34.98	－	4.6
単収(t/ha)	3.19	3.43	3.46	0.06	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 収穫面積増で生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.1%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.10.7)によれば、2021/22年度の実産量は、前年度より2.5%増の140.8百万トンで史上最高の見込み。

10月上旬から中旬にかけてブラジル中西部・南部の主産地で広く降雨があり、作付け・発芽を促した。最大生産州である中西部のマット・グロッソ州の作付進捗率は10月15日現在45%で、過去5年平均より20ポイント前後進んでいる。南部のパラナ州の作付進捗率は10月18日現在38%。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加と世界的な需要増から前年度より13.9%増の93.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年9月の輸出量は4.8百万トンで、前年同月(4.3百万トン)に比べ13.2%増。2021年1～9月の輸出量は77.5百万トンで、前年同期(78.8百万トン)に比べ1.7%減となっている。内訳は、1位が中国で53.5百万トン、2位がスペインで3.3百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2021/22年度の実作付けは、2021年9月以降、順次開始。
2022年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2021/22年度	2021年												2022年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												収穫 28.3(百万t)								
冬とうもろこし	作付 4.4(百万ha)												作付 16.5(百万ha)								
大豆	マット・グロッソ州、パラナ州等												収穫 140.8(百万t)								

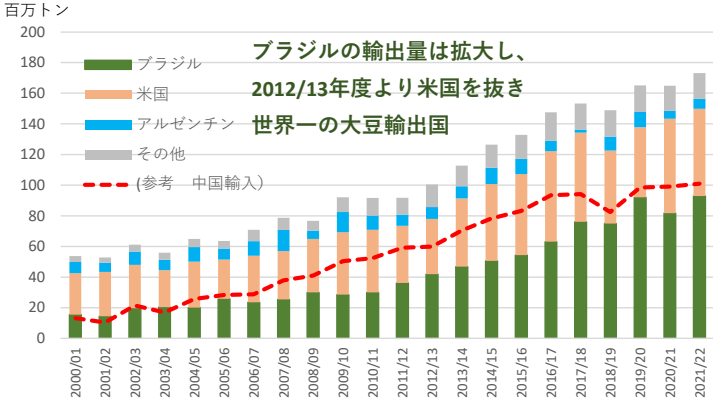
資料：CONAB穀物レポート(2021.10.7)

大豆ーブラジル

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	128.5	137.0	144.0 (141.5)	-	5.1	
消 費 量	49.4	49.4	50.4 (48.8)	-	1.9	
うち搾油用	46.7	46.8	47.7 (46.2)	-	2.0	
輸 出 量	92.1	81.7	93.0 (92.6)	-	13.9	
輸 入 量	0.6	1.0	0.7 (0.3)	-	▲ 36.3	
期末在庫量	20.0	27.0	28.3 (5.4)	0.4	4.8	
期末在庫率	14.1%	20.6%	19.7% (3.8%)	0.2	▲ 0.9	

収穫面積(百万ha) 36.90 38.60 40.40 (39.90)
単収(t/ha) 3.48 3.55 3.56 (3.55)
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 October 2021)
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図：世界の実大豆輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.10.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、とうもろこしに比べ大豆の輸出税率が高いなど農家の収益性が劣ることから収穫面積が下方修正され、前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より10.4%増の51.0百万トンの見込み。11月以降に作付けが本格的に開始される。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、パラナ川の水位低下など輸送上の問題の継続を背景に、前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より5.2%増の49.4百万トンの見込み。なお、2020/21年度の消費量は、9月の降雨によりパラナ川の渇水は多少緩和されたものの、搾油工場からの大豆製品の輸送に遅れが生じ、搾油用需要の下方修正に伴い、前月予測から1.0百万トン下方修正され、47.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より23.3%増の6.4百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～8月の輸出量は4.1百万トンで、前年同期（6.4百万トン）より35.7%減。内訳は、1位が中国279万トン、2位がエジプト60万トンとなっている。引き続き、7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2021年1月以降、輸出税を大豆33%、大豆粕及び大豆油31%に設定し、現在も継続中。

大豆－アルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	48.8	46.2	51.0 (48.0)	▲ 1.0	10.4	
消費量	45.9	47.0	49.4 (47.6)	▲ 1.0	5.2	
うち搾油用	38.8	39.7	42.0 (41.3)	▲ 1.0	5.9	
輸 出 量	10.0	5.2	6.4 (6.5)	－	23.3	
輸 入 量	4.9	5.0	4.7 (4.8)	－	▲ 6.0	
期末在庫量	26.7	25.8	25.7 (5.4)	1.1	▲ 0.2	
期末在庫率	47.7%	49.4%	46.1% (10.0%)	2.7	▲ 3.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.70	16.47	16.90 (16.40)	▲ 0.30	2.6	
単収(t/ha)	2.92	2.81	3.02 (2.93)	－	7.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 October 2021)

IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

写真：北部サンタフェ州の大豆作付け前の土壌の準備作業風景
(11月以降に大豆作付け予定：10月2日撮影)



< 中国 > 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の19.0百万トンの見込み。

中国糧油情報センター（2021.10.8）によれば、9月は東北地区の大部分は晴天と雨天が交互する温暖な天候で登熟・成熟に有利であった。中国中央气象台（2021.10.8）によれば、黒龍江省等東北地区は、10月上旬現在、成熟期から収穫期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、過去10年間に比べて消費量の増加ペースはペースダウンするものの、前月予測からの変更はなく、前年度より5.5%増の117.7百万トンの見込み。なお、USDA「Oil Crops Outlook」（2021.10.14）によれば、2020/21年度の消費量は、最近起きた東北3省の電力不足・停電の影響により搾油施設の操業に支障が生じ、前月予測から0.9百万トン下方修正され、93.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.0%増の101.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～8月の輸入量は67.1百万トンと、前年同期比で3.7%増。内訳は、ブラジル産43.0百万トン（64%）、米国産21.6百万トン（32%）。なお、遅れていたブラジル産大豆の収穫・出荷の進展に伴い、8月の輸入量はブラジル産が9.0百万トンと95%を占めた。今後は、米国の収穫開始に伴い、輸入先が徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報8月号」によると、8月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、政府の買付と新穀大豆の品質の低下が供給不足の旧穀大豆価格を支えて、前月（6,060元/トン）からやや上昇し、6,100元/トンで依然高水準である。一方、8月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,600元/トンと前月（4,720元/トン）から下落し、内外価格差は拡大した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

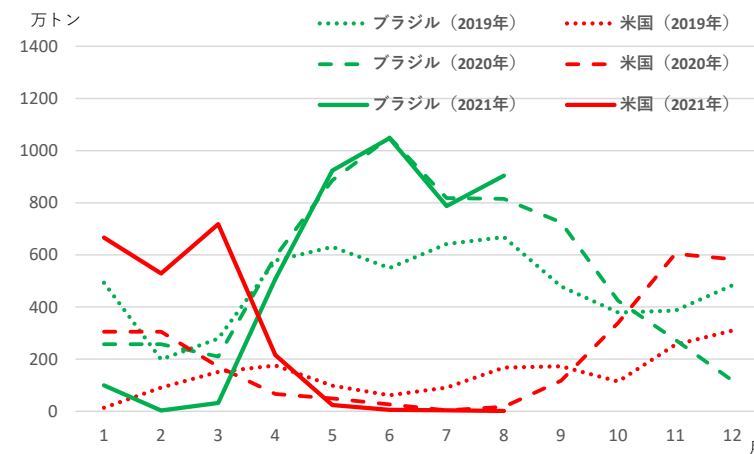
大豆—中国

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	18.1	19.6	19.0 (18.7)	-	▲ 3.1	
消 費 量	109.2	111.6	117.7 (120.5)	-	5.5	
うち搾油用	91.5	93.0	98.0 (101.5)	-	5.4	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	25.0	
輸 入 量	98.5	99.0	101.0 (102.3)	-	2.0	
期末在庫量	26.8	33.7	35.9 (34.6)	0.9	6.5	
期末在庫率	24.5%	30.2%	30.5% (28.7%)	0.8	0.3	

（参考）
 収穫面積(百万ha) 9.30 9.87 9.60 (9.35) - ▲ 2.7
 単収(t/ha) 1.95 1.99 1.98 (1.99) - ▲ 0.5
 資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(12 October 2021)
 IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ > 西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より7.2%減の5.9百万トンの見込み。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2021.10.20)によれば、収穫面積は前年度より4.8%増の一方、単収は西部カナダの乾燥の影響からマニトバ州等で大幅に減少することから、生産量は前年度より7.4%減の5.9百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.9.28)によれば、大豆生産面積の約7割を占める東部カナダのオンタリオ州、ケベック州では広範囲で大雨となり、収穫作業が遅れた。一方、西部カナダの平原3州では、温暖で乾燥天候が広がり、収穫作業が進展した。

産地のマニトバ州クロップレポート(2021.10.5)によれば、収穫進捗率は89%で、過去5年平均(45%)より大幅に進展している。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.2%減の2.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より12.0%減の4.0百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月の輸出量は1.3万トンで、国別では、ノルウェー(1.2万トン)、米国(0.1万トン)の順。

大豆ーカナダ

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	6.4	5.9 (5.9)	-	▲ 7.2
消 費 量	2.6	2.5	2.4 (2.3)	-	▲ 3.2
うち搾油用	1.8	1.6	1.7 (1.8)	-	0.5
輸 出 量	3.9	4.5	4.0 (4.0)	-	▲ 12.0
輸 入 量	0.3	0.5	0.5 (0.4)	-	▲ 3.1
期末在庫量	0.6	0.5	0.5 (0.3)	-	0.4
期末在庫率	9.7%	6.9%	7.5% (3.9%)	-	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.10 (2.14)	-	2.9
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.81 (2.75)	-	▲ 9.9

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 October 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 October 2021)

写真: 西部マニトバ州の大豆収穫中のほ場風景
(9月29日撮影)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

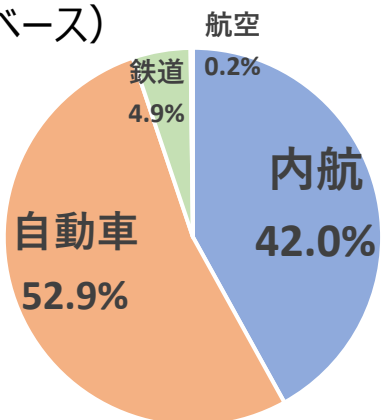
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

第4号特別分析トピック：我が国の農産物輸入における海運事情（内航編）

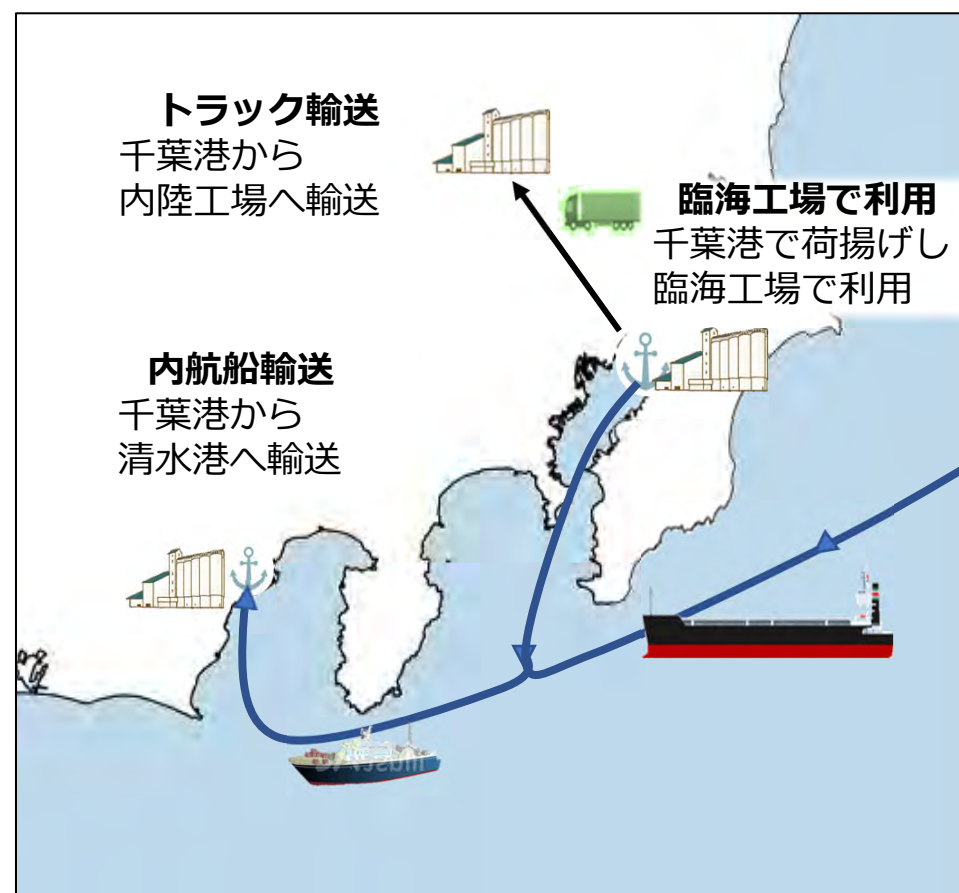
我が国の国内海運（内航船）概要

- 内航船輸送は我が国の輸送活動量全体の4割を占める。主流はトラックなど自動車輸送（5割強）。
- 内航船輸送の大半は石油製品やセメント等資源や工業品であり、農林水産品・食料工業品の割合は1.3%。
- 海外から輸入される穀物は、①港湾隣接工場に直接荷揚げ・利用されるケース、②内航船に積み替えられ地方港に移送されるケース、③トラックに積み替えられ内陸工場に移送されるケース、がある。

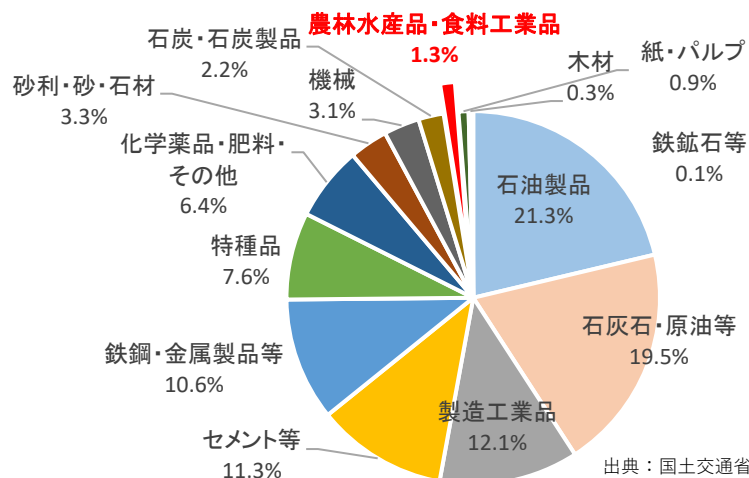
○ 国内全貨物輸送の輸送機関別の活動量
(トンキロベース)



○ 国内の主な穀物運搬経路（千葉港の例）



○ 内航船輸送の品目別の輸送活動割合
(トンキロベース)

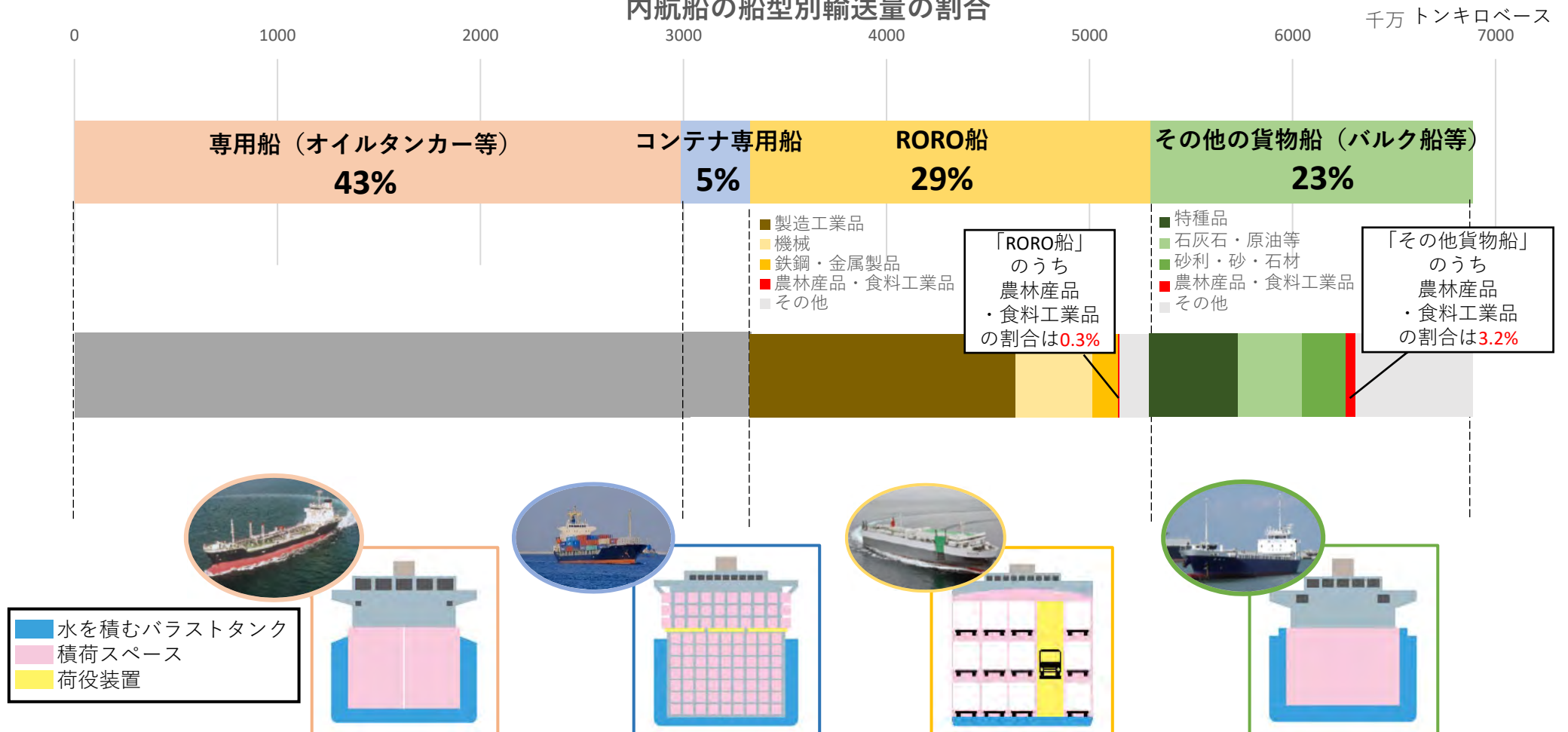


出典：国土交通省「海事レポート2021」

内航船の船の種類と商品の使用割合

- 主な内航船の種類は、専用船(オイルタンカー等)、コンテナ船、RORO船とその他の貨物船(バルク船等)。
- 農林産品・食料工業品は主に貨物船、RORO船で輸送されており、そのうち大容量の穀物はバルク船で輸送されている。※RORO船:船内にトラックやトレーラーを格納し直接貨物を積み下ろしできる貨物船
- 一方、バルク船での輸送の大半は石灰石等の非農産品で、農産物や食料品の割合はわずか3.2%である。
- 船舶の老朽化や船員・港湾施設労働者不足などがあり、内航船の供給不足は工業品・農産品共通の課題となっている。

内航船の船型別輸送量の割合



穀物輸入時の荷揚げ・搬入（小麦の場合）

- 小麦の場合、バルク船が接岸後、小麦を吸い上げる機器（ニューマチックアンローダ）により荷揚げされ、計量後に穀物倉庫（サイロ）に保管。
- サイロに保管された後、隣接工場に直接出庫される場合と、トラックや舢舨（はしけ）により他の地域の工場に出荷される場合がある。

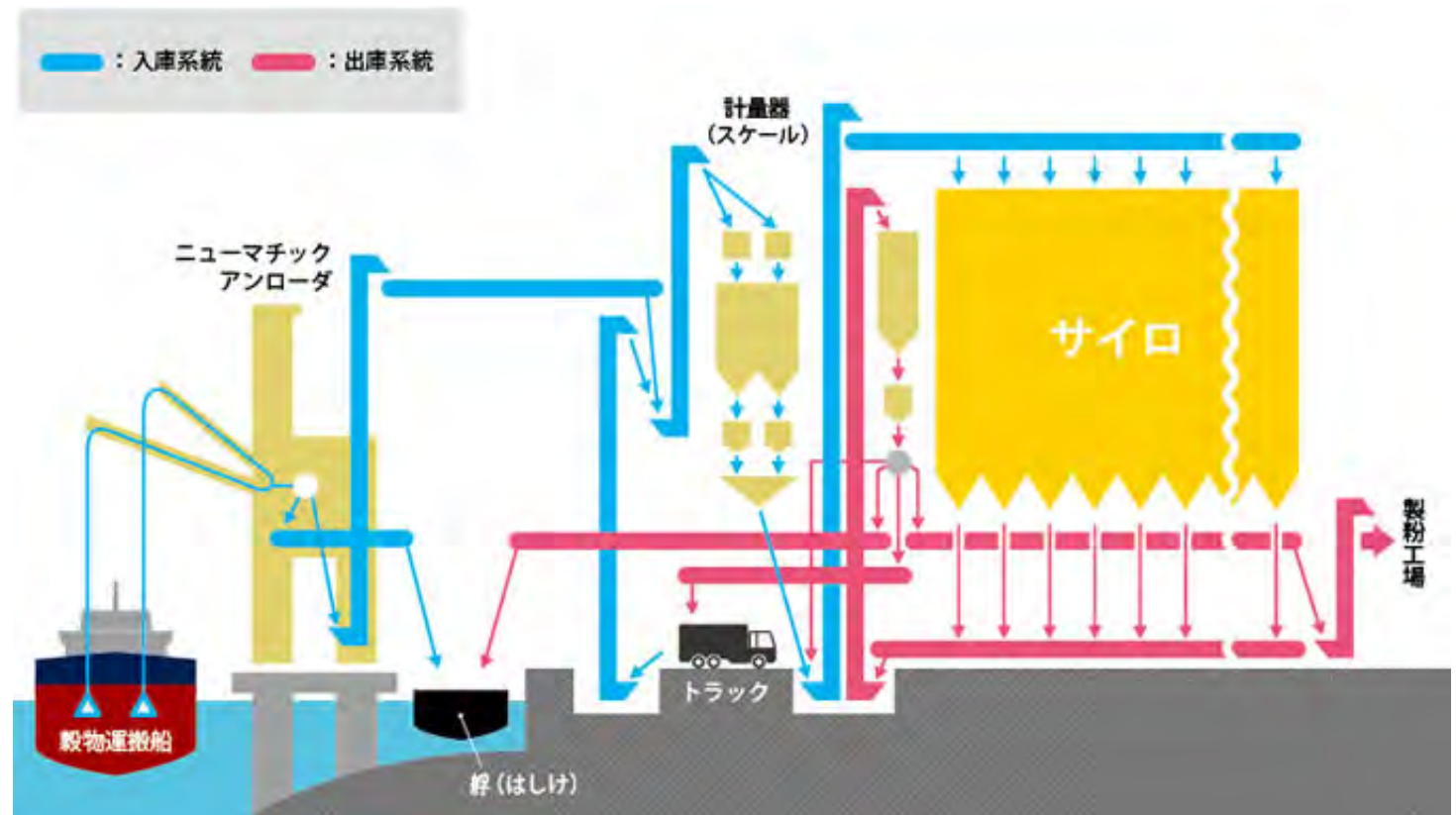


写真上：穀物運搬船吸揚、写真下：舢舨（はしけ）積込



ニューマチックアンローダ

輸入港での荷揚げ例（小麦）



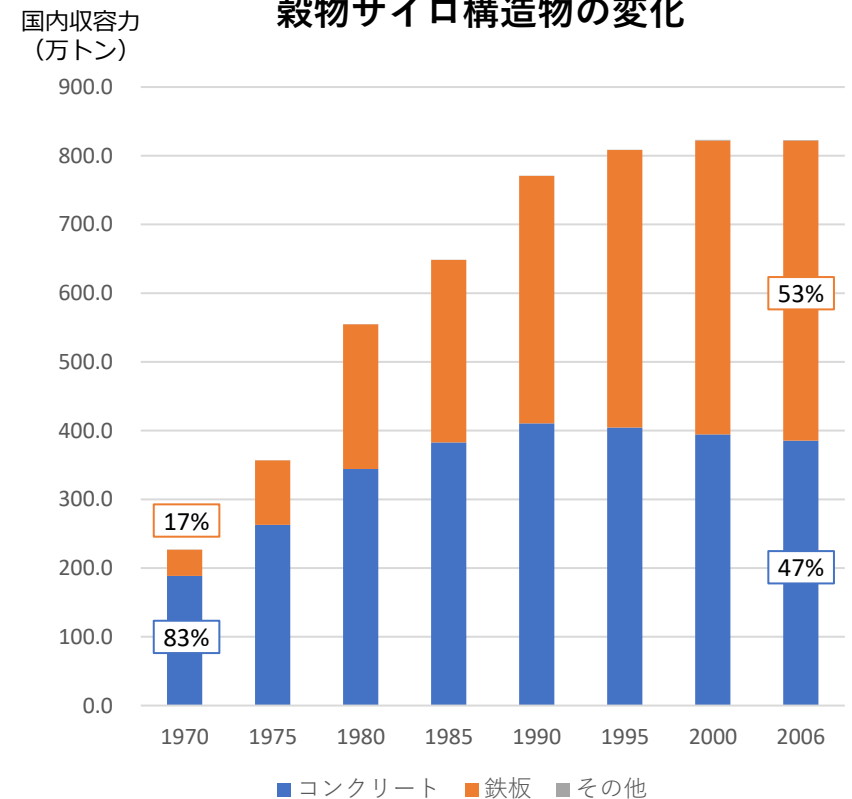
港湾地域の穀物サイロ①

- 穀物サイロ(倉庫)は、普通倉庫に比べ設置面積当たりの貯蔵量が大きく、穀類だけでなく石炭、鉱石、肥料などの工業品にも用いられる。
- コンクリート製サイロと鋼板製サイロがあり、穀物は直径が5～10mの鋼板製サイロが主流。以前はコンクリート製が主流であったが、近年は改築時に鋼板製に変更する割合が増加。
- 近年、老朽化や耐震性強化のための改修が必要となるサイロが増加しているが、資材高などにより建設コストが上昇している。

港湾地域の穀物サイロ全景



穀物サイロ構造物の変化

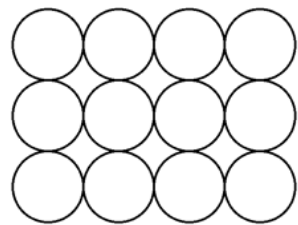


出典：日清製粉・日清エンジニアリング ホームページ、
農林水産省「穀物サイロ実態調査結果報告（H20年）」

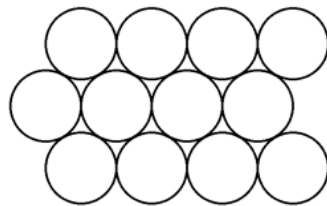
港湾地域の穀物サイロ②

- 穀物サイロの容量は1ビン約500～1500トンと幅があり、用途や立地によって数十ビンを集約して建設する。また、主サイロの配置によって発生する隙間に副サイロを建設する場合もある。
- 穀物以外のサイロの例としては、小型のものでは建築用セメントサイロ(30トン)や、大型のものでは火力発電所用石炭サイロ(7万トン)がある。

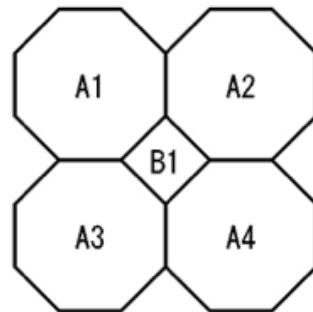
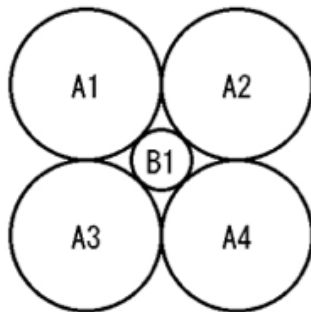
サイロの配置例と副サイロ



正方配置



千鳥配置



A1～A4：主サイロ

B1：副サイロ

(注) 図は水平断面

穀物サイロとその他サイロの比較

セメント
サイロ
(30t)



8m



穀物サイロ
(1ビン1500t)

32m



石炭サイロ
(7万t)

70m

穀物バルク船の種類と必要水深

- 世界で利用されるバルク船は、輸送効率化のために大型化される傾向。穀物輸入でも、これまでの中型船から、6-8万トン運搬できるパナマックスなど大型船の利用が増加。
- 一方、日本の港湾の岸壁水深は10-14mが多く、大型バルク船が接岸できる14m以上の港湾は限られているため、国土交通省は、効率的な資源・穀物の輸入に向け大型船に対応できる港湾整備を進めている。

名称 (船型：トン※1)	船型例					備考	主な積載貨物		
	重量 (トン)	満載喫水 (m)	必要岸壁 水深 (m)	船長 (m)	船幅 (m)		穀物	鉄鉱石	石炭
ハンディサイズ (船型：1.5～3万トン程度)	3	9.5	10.5	190	27	小回りの利く船型であり、大型船が入ることができない小さな港にも入ることができる。本船自体に荷役用クレーンを備えているものが多い。	↑		
ハンディマックス (船型：3.5～6万トン程度)	4.7	10.7	12	186	31	ハンディサイズのうち最大船型。			
パナマックス (船型：6～8万トン)	7.4	12.7	14	225	32.2	パナマ運河を通航できる最大船型。	↓		
ネオパナマックス※2 (船型：10万トン程度)	12	15.2	17	250	43	2014年完成の新パナマ運河を通航できる最大船型。			
ケープサイズ (船型：15～20万トン程度)	15.5	17.5	19	280	43	パナマ運河を通航できず、南アフリカ共和国の喜望峰を回る船舶。	↑		
VLOC <Very Large Ore Carrier> (船型：30万トン程度)	33	23	23	340	60	超大型の鉱石専用船。			

日本の主要港湾の岸壁の水深は10～16m程度

穀物輸入において、日本の主要港湾の規模（水深等）から、一般的に利用される船種

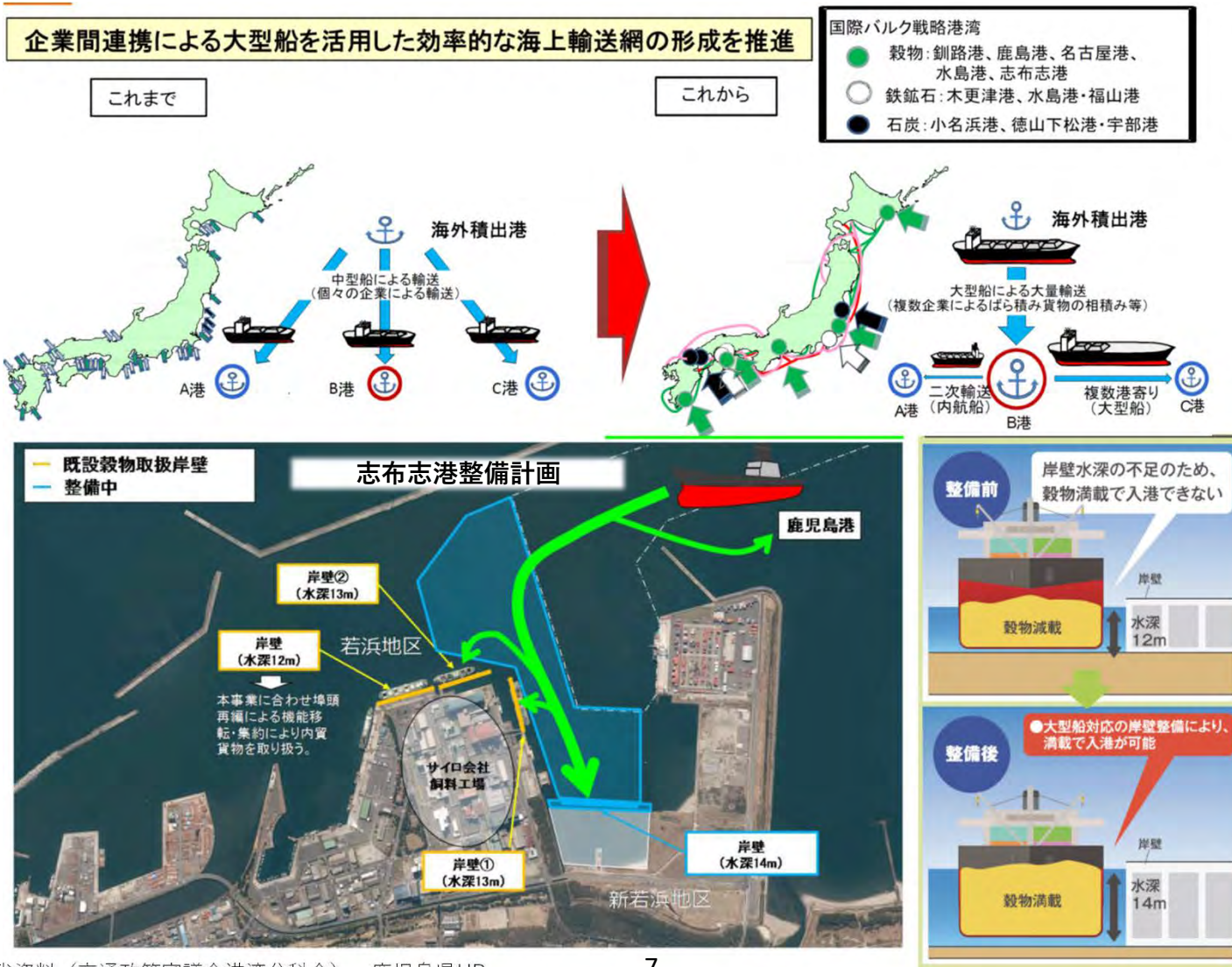
※1：DWT(Dead Weight Tonnage)：貨物船に積載可能な貨物等の最大重量トン。主に貨物船の大きさを表す。

※2：新パナマ運河に対応した船舶（仮称）。

出典：国土交通省「港湾の長期政策「PORT 2030」～参考資料集～」、日本港湾協会「港湾用語の基礎知識」

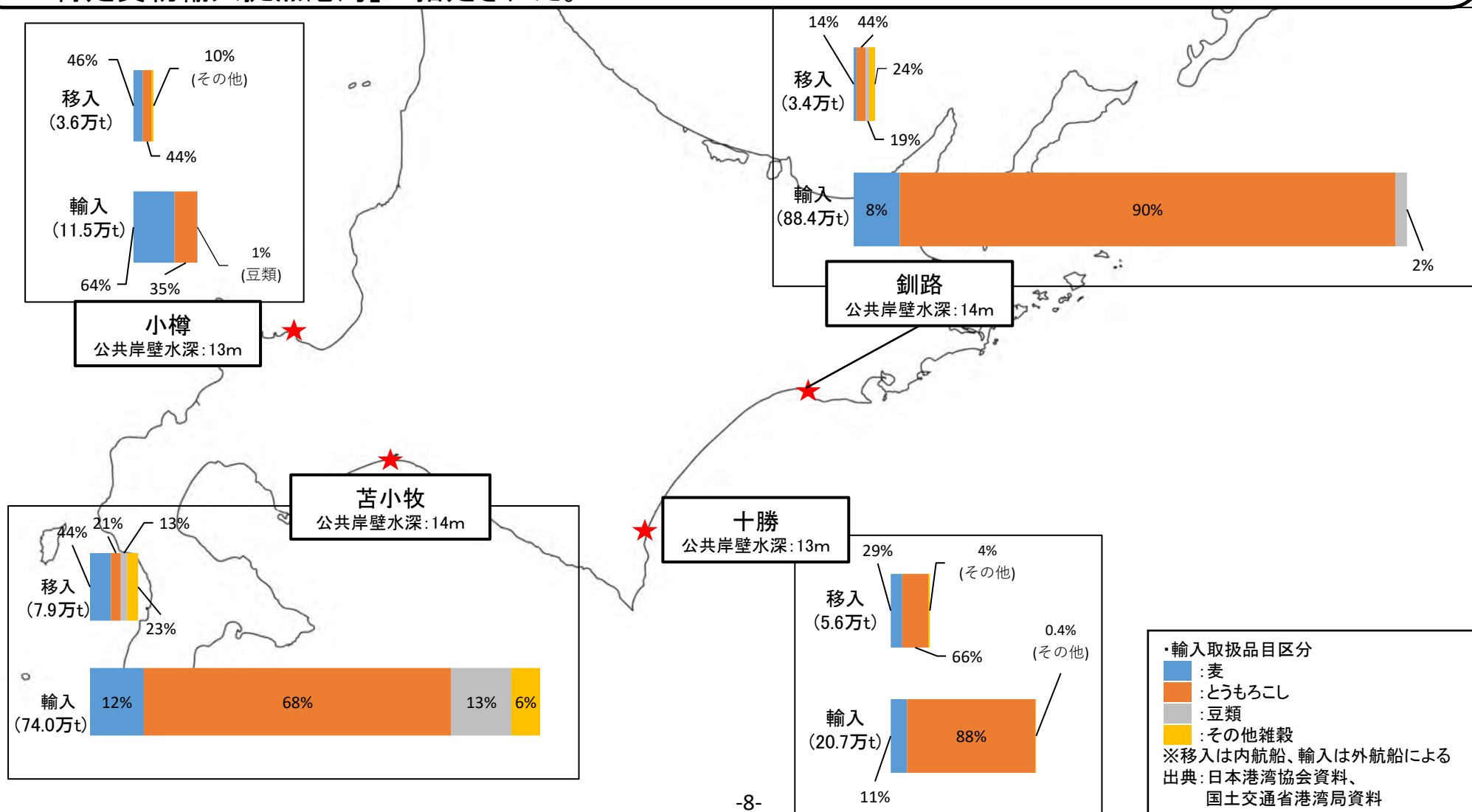
大型穀物バルク船に対応するための港湾整備例：志布志港

- 国土交通省は、大型バルク船に対応できる港湾整備のため、平成23年に「国際バルク戦略港湾」を選定。穀物ターミナル整備についても、釧路港（北海道）・水島港（岡山県）・志布志港（鹿児島県）を選定。
- 飼料用穀物の利用が多い南九州の主要輸入港である志布志港においても、水深12m→14mの岸壁及び関連設備の整備が進められている。



我が国の穀物の主要港湾（北海道）

- 日本の主要な酪農・畜産地域である北海道は、輸入量・移入量（他港湾からの内航船による移送）ともに飼料用とうもろこしの割合が高い。
- 特に釧路港は、我が国主要な酪農地帯である北海道のみならず、東北地方等の飼料用穀物（とうもろこし）の輸入拠点としての重要な役割を担っているため、穀物が対象としては全国で初めて、国土交通省による「特定貨物輸入拠点港湾」に指定された。



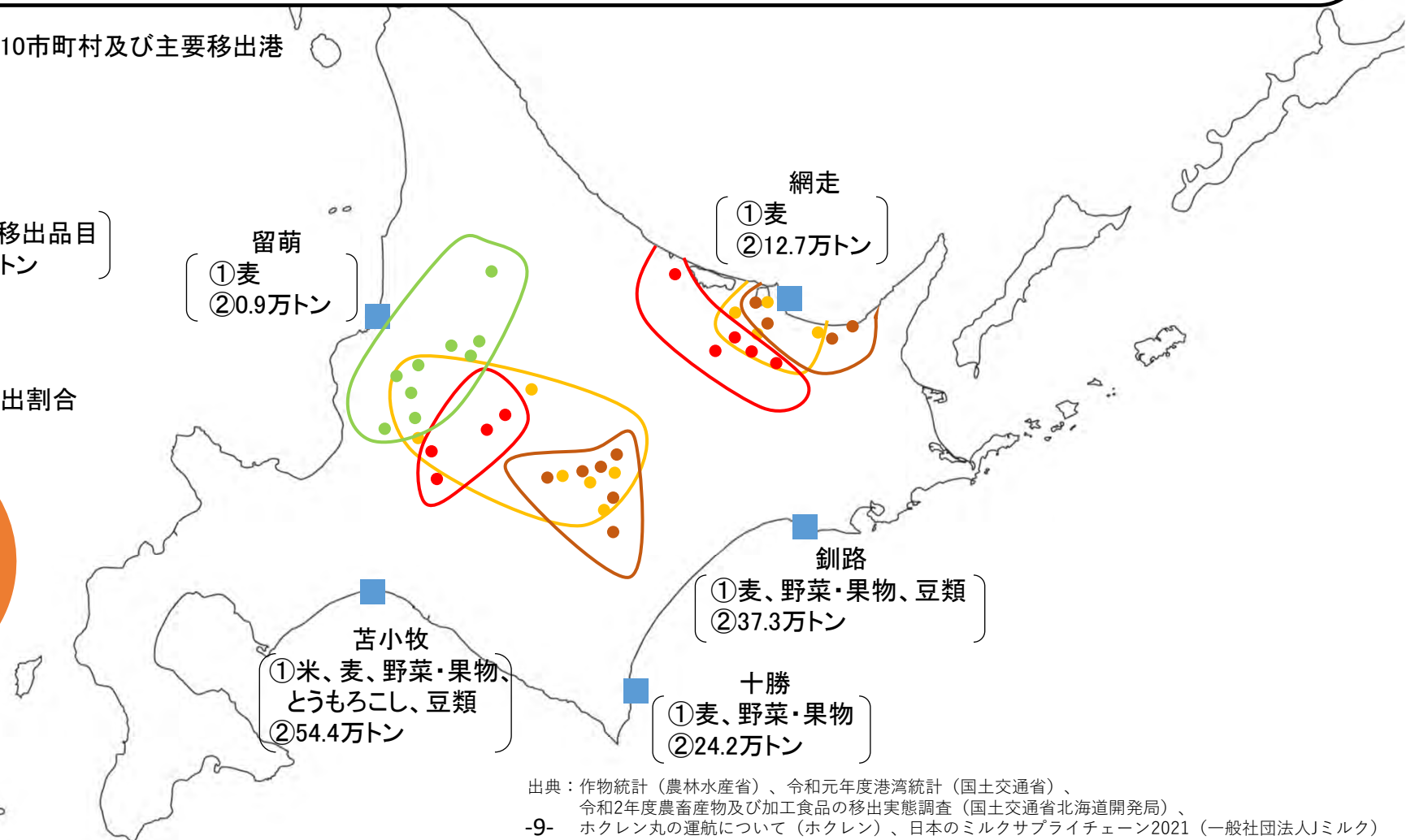
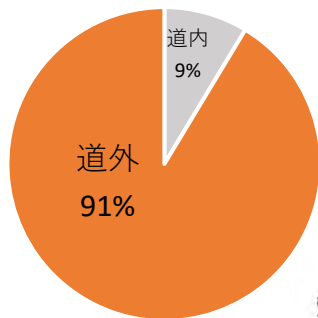
北海道からの農産物輸送の課題

- 北海道産農産物の移出量のうち、道外向けは91%を占める。
- 道外への農産物出荷のうち海上輸送（トラック・フェリー、内航船）は67%（特に米：64%、小麦：100%、ばれいしょ：63%、たまねぎ：36%）を占めるため、収穫期には北海道→本州の船が不足する課題がある。
- 内航船利用により、1,500トン（5トンコンテナ300個分）の大量輸送によるコスト減が可能な一方、デメリットとしては、
 ①出荷時期が選べない（ある程度の量を集荷しないと出港できない）、②内陸ほど港湾出荷コストが高くなる、ことがある。
 （生乳の場合、道外向け出荷全体の約半分は、高速大型RORO船「ほくれん丸」が釧路港～日立港間を輸送している。
 （1度に約1,000トンの輸送が可能）

○ 主要農産物収穫量上位10市町村及び主要移出港

- → 米
 - → 小麦
 - → ばれいしょ
 - → たまねぎ
 - → 主要移出港
- ①主な道外向け移出品目
②移出量：年/万トン

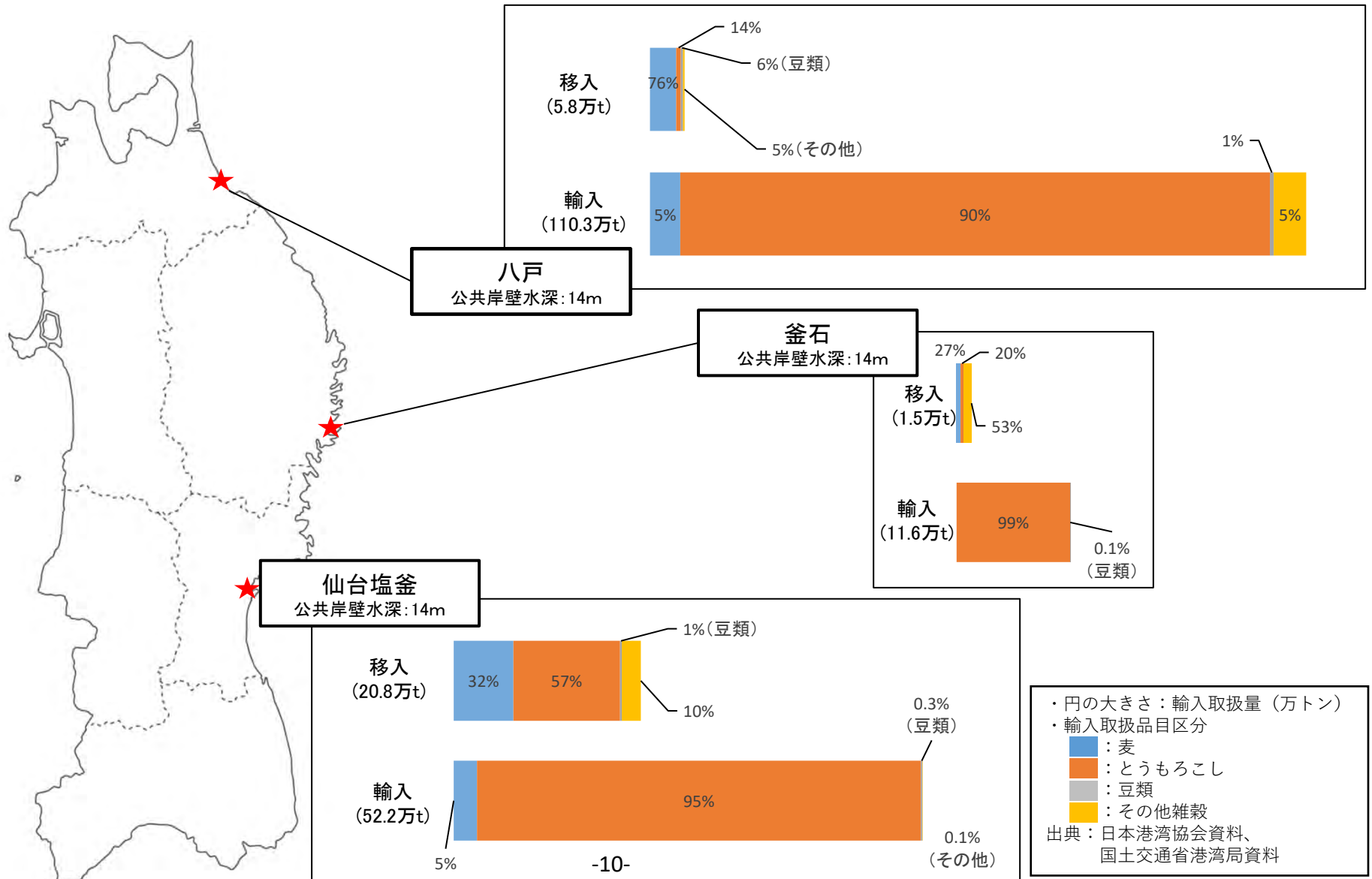
○ 北海道産農産物の移出割合



出典：作物統計（農林水産省）、令和元年度港湾統計（国土交通省）、
 令和2年度農畜産物及び加工食品の移出実態調査（国土交通省北海道開発局）、
 -9- ホクレン丸の運航について（ホクレン）、日本のミルクサプライチェーン2021（一般社団法人Jミルク）

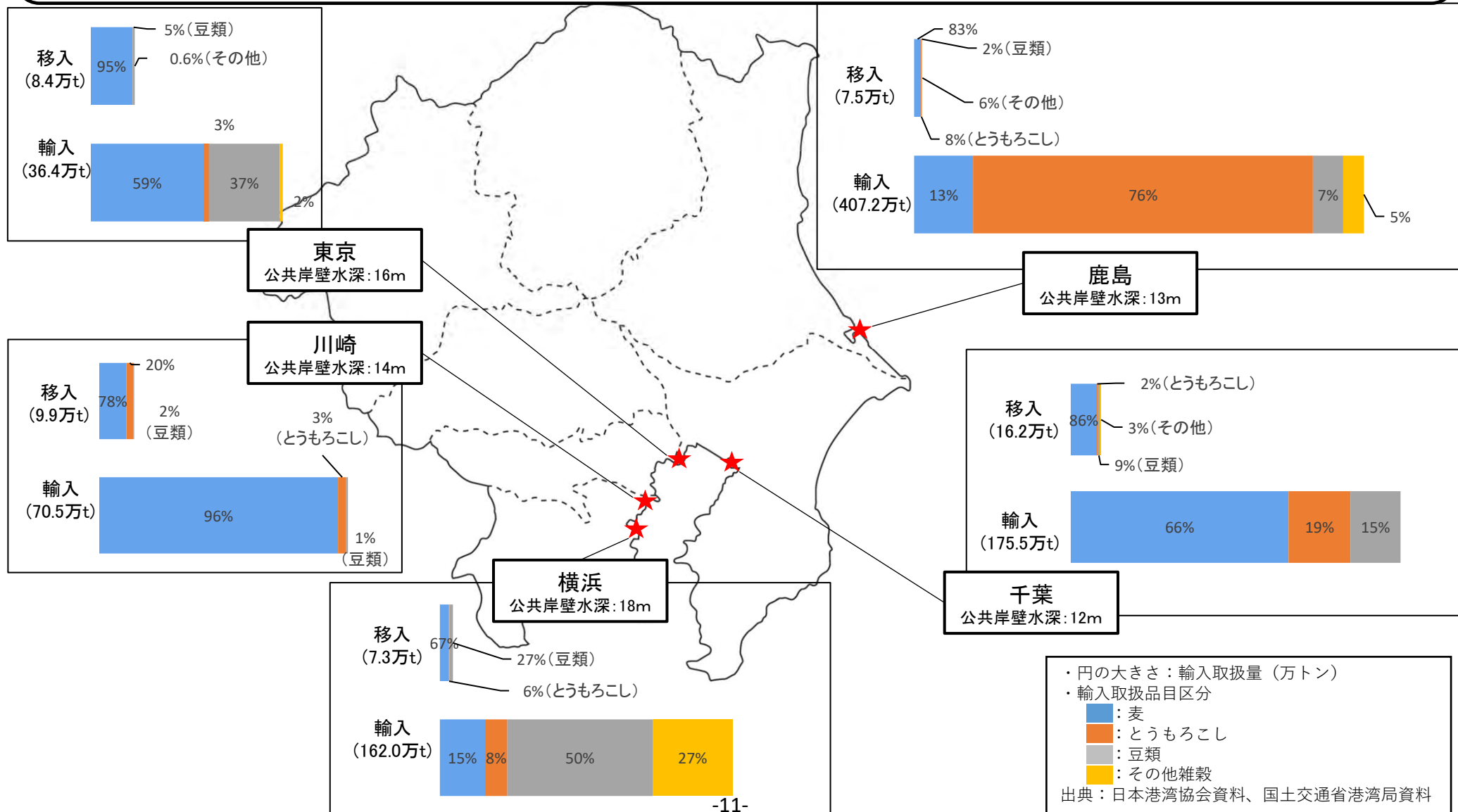
我が国の穀物の主要輸入港湾（東北）

- 畜産業が盛んなため、いずれの港湾でもとうもろこしが輸入の9割以上を占めている。
- 移入については、飼料用とうもろこしとともに食用小麦の割合も高い。



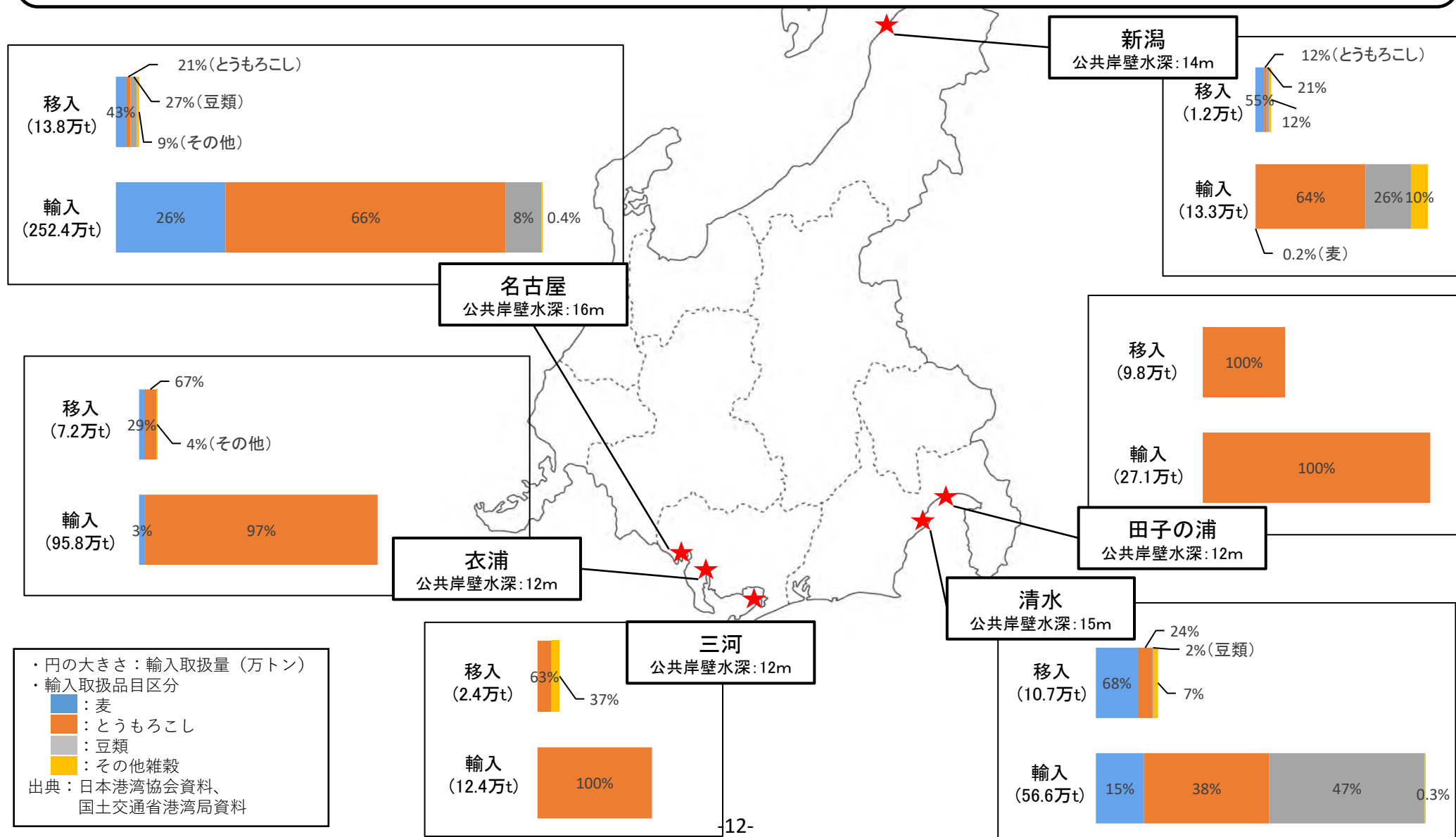
我が国の穀物の主要輸入港湾（関東）

- 消費量が多い都市圏に供給するため、飼料用・食用穀物ともに海外からのファーストインポート（第1積揚港）となることが多く、輸入量が日本の中で最も多い。また、各港湾とも大規模な臨海工場を抱えている。
- 特に千葉・川崎では小麦（小麦粉）、鹿島ではとうもろこし（コーンスターチ）、横浜では大豆（植物油）の占める割合が高い。



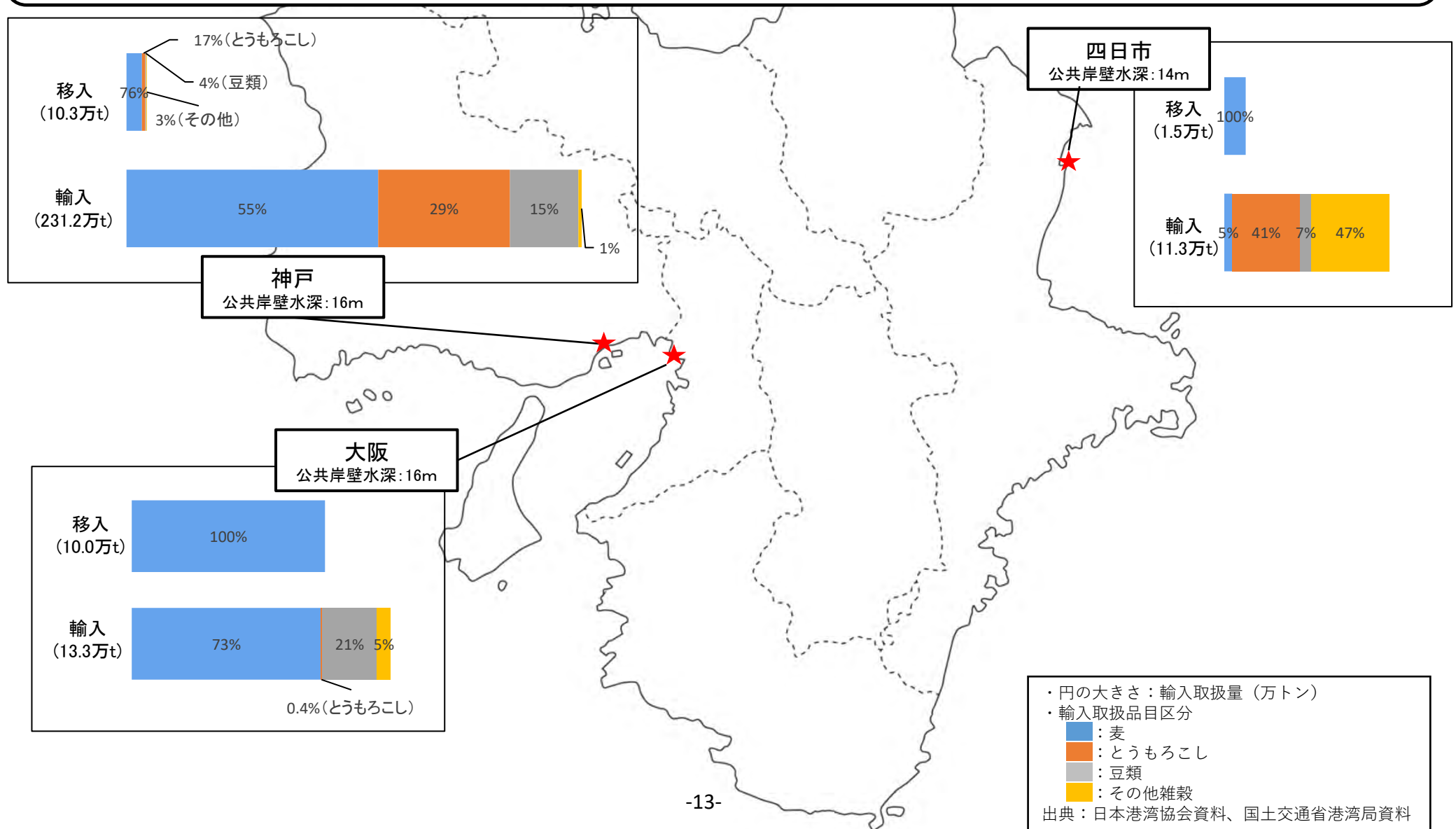
我が国の穀物の主要輸入港湾（中部・北陸）

- 畜産業が盛んなため、いずれの港湾でもとうもろこし（飼料用）の輸入・移入の割合が高い。
- 清水港は戦前から搾油工場が隣接しており、現在も大豆の輸入割合も高い。



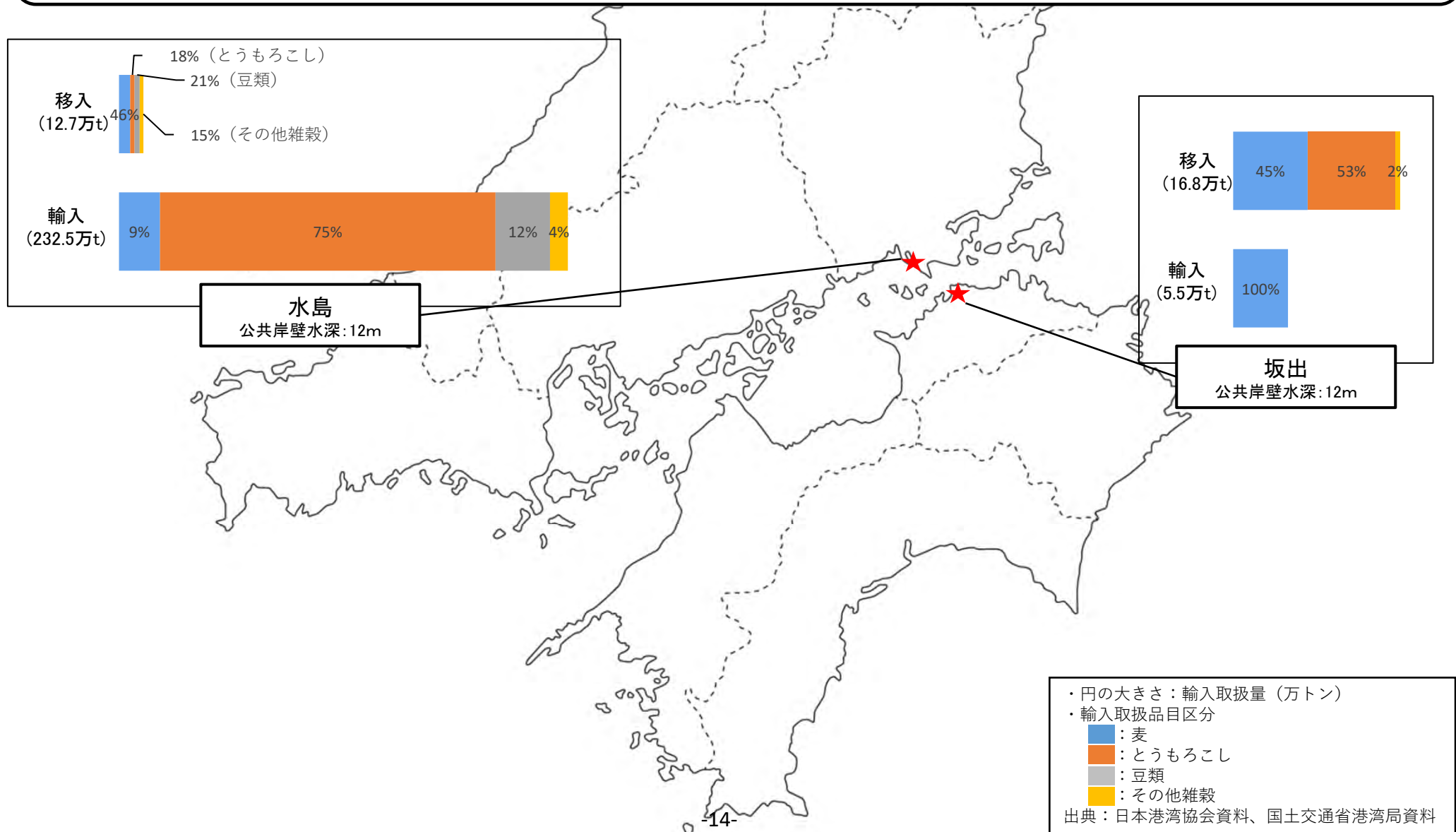
我が国の穀物の主要輸入港湾（近畿）

- 首都圏に次ぎ消費量の多い都市圏のため、大阪は輸入・移入とも食用小麦が大半を占めている。
- 神戸は食用・飼料用双方のニーズが高いため、小麦と飼料用とうもろこしの輸入割合が高い。四日市は飼料用とうもろこしの輸入割合が特に高い。



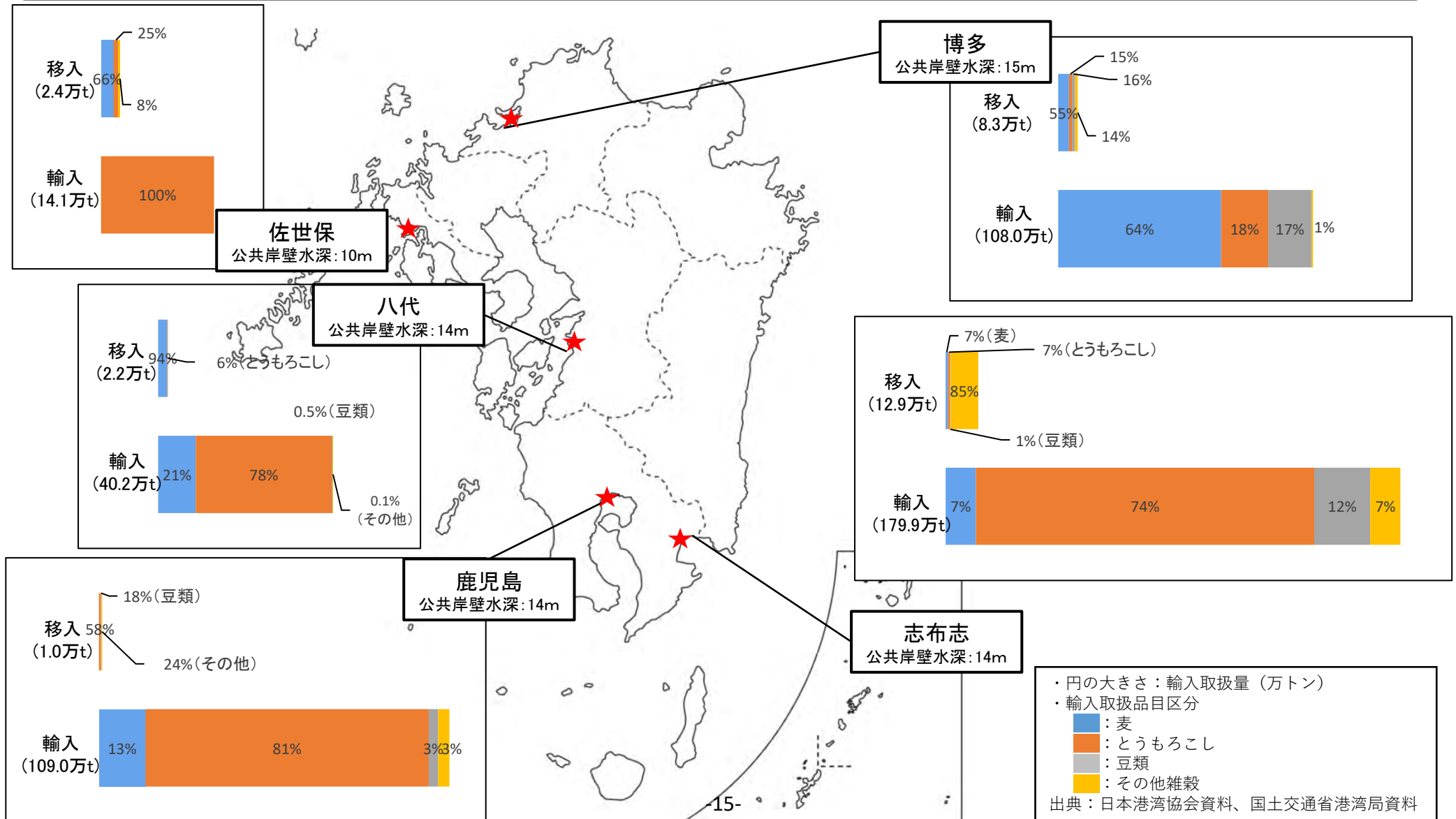
我が国の穀物の主要輸入港湾（中国・四国）

- 特に養鶏業が盛んな中四国地域に供給するため、水島は飼料用とうもろこしの割合高い。
- 坂出はうどんの生産・消費が盛んな地域に供給するため、豪州産小麦の輸入・移入割合が高い。



我が国の穀物の主要輸入港湾（九州）

- 九州は我が国で畜産業が特に盛んな地域であり、特に鹿児島・志布志では飼料用とうもろこしの輸入量が多くその割合も高い。
- 博多は製粉工場が多く立地しており、食用小麦の輸入割合が高い。



(参考1) 輸入穀物備蓄事業：食糧麦備蓄対策事業

<対策のポイント>

米に次ぐ主要な食糧である麦については、安定供給を図る観点から国が一元的に輸入していますが、世界の麦の需給動向は、ひっ迫と緩和が繰り返されており、今後もこのような状況が続くことが予想されています。
このため、国全体として輸入麦の適正な備蓄水準を確保することにより、不測の事態が生じた場合においても、食糧用輸入小麦の安定供給を確保しています。

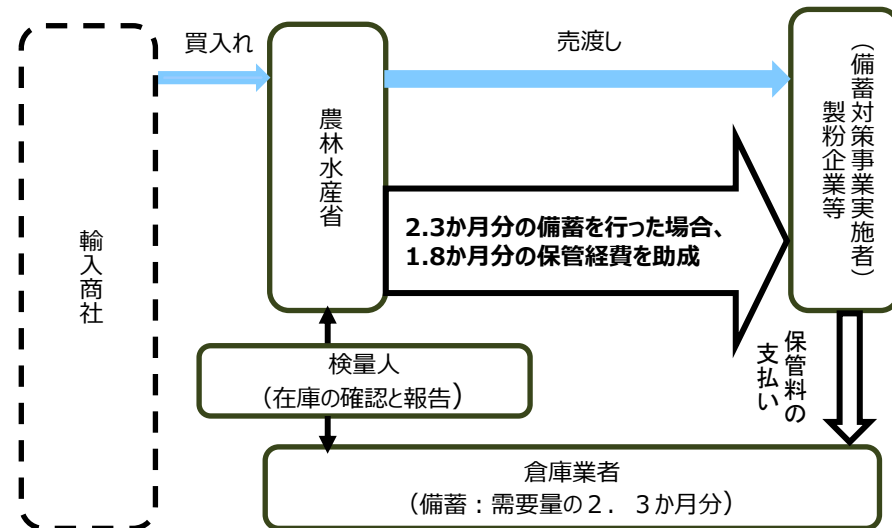
<事業目標>

不測の事態が生じた場合にあっても、製粉企業等に安定的に食糧用輸入小麦を供給。

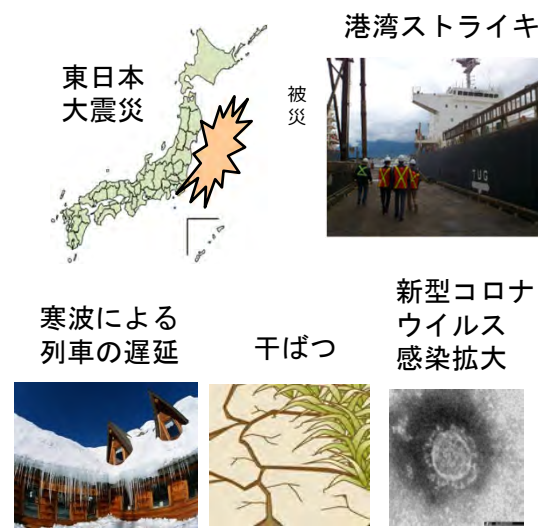
<事業イメージ>

○ 食糧用輸入小麦の備蓄

製粉企業等が2.3か月分の備蓄を行った場合、国が1.8か月分の保管経費を助成。(定額)

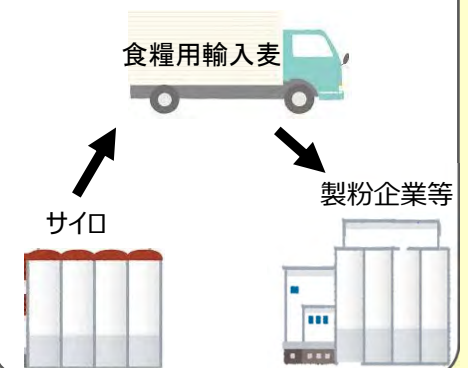


リスク内容の例



○ 食糧用輸入小麦の緊急運搬

自然災害等の発生時に国の指示により備蓄小麦の取崩しや輸送等を行うこととし、必要な経費を助成。(1/2)



<本事業により食糧用輸入小麦の安定供給が確保された事例>

- ・平成31年1月～2月 カナダで冬期（悪天候）における小麦船積遅延
- ・令和元年9月 アメリカで河川輸送の停滞（水門改修）による小麦船積遅延
- ・令和2年1月 カナダで冬期（悪天候）における小麦船積遅延

(参考2) 輸入穀物備蓄事業：飼料穀物備蓄対策事業

<対策のポイント>

配合飼料製造事業者等が、不測の事態に備えて策定している事業継続計画（BCP）に基づき実施する、飼料穀物の備蓄、緊急運搬、関係者の連携体制の強化等の取組を支援することにより、配合飼料の安定供給を確保し、畜産経営の安定を図ります。

<備蓄水準>

民間の流通在庫を含め**100万トン程度**。このほか、海上輸送中の飼料穀物約100万トンが存在し、備蓄している穀物とあわせて2カ月程度のストックが存在。

<事業イメージ>

○ 飼料穀物の備蓄

配合飼料メーカー等が実施する飼料穀物の備蓄の取組に対し、その費用の一部（約75万トン）を支援。（補助率5/17以内、1/3以内）

BCPに基づき、 リスクの内容に応じて活用

※備蓄する飼料穀物は、とうもろこし、ごうりゃん、大麦、小麦、大豆油かす、ふすまの中から民間が選択。

リスク内容の例

東日本
大震災



ハリケーン



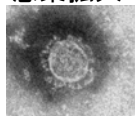
北米の寒波



干ばつ



新型コロナ
ウイルス
感染拡大



○ 配合飼料の緊急運搬

国内の災害等により、配合飼料の供給が困難となった地域に対する配合飼料の緊急運搬を図るため、必要な費用の一部を支援。（1/2以内、定額）



○ 関係者間の連携のための環境整備

非常時における円滑な対応を図るため、平時における関係者の連携体制の強化の取組（協議会の開催、配合飼料の生産状況の調査等）を支援。（定額）



<配合飼料工場の立地状況（注）>

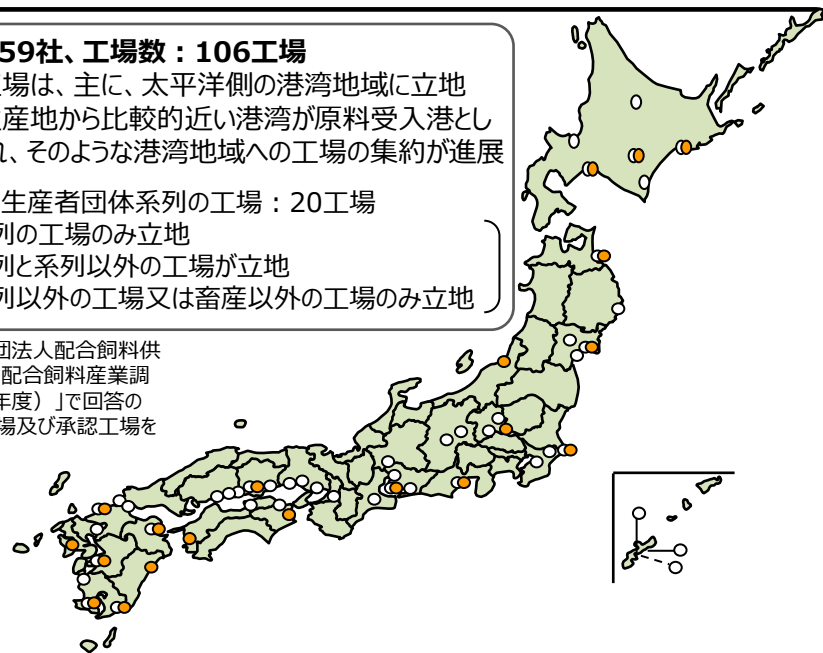
企業数：59社、工場数：106工場

- ・飼料工場は、主に、太平洋側の港湾地域に立地
- ・畜産主産地から比較的近い港湾が原料受入港として整備され、そのような港湾地域への工場の集約が進展

うち全国生産者団体系列の工場：20工場

- 系列の工場のみ立地
- 系列と系列以外の工場が立地
- 系列以外の工場又は畜産以外の工場のみ立地

注：公益社団法人配合飼料供給安定機構「配合飼料産業調査（令和元年度）」で回答のあった承認工場及び承認工場を有する企業



<これまでの主な対応事例>

- ・平成29年2月～ 北米の寒波の影響により、飼料用とうもろこしの輸送遅延が生じた事態に対応。
- ・令和元年10月～ 台風19号による配合飼料工場浸水に伴う工場停止に対応し、配合飼料の緊急運搬を実施。
- ・令和2年3月～ 工場の従業員が新型コロナウイルスに感染した影響で、配合飼料の供給が困難となった際に、配合飼料の緊急運搬を実施。

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2021 年 10 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--